

豊川市赤塚山公園園報

第7号

令和3年4月～令和7年3月
(2021年4月～2025年3月)

豊川市赤塚山公園

(令和8年3月発行)

目次

園長あいさつ	1
I 施設案内	2
ぎよぎよランド館内案内図	4
アニアニまある案内図	4
おもな施設	5
II できごと	7
III 組織	12
IV 教育普及活動	14
学習プログラム	14
発行物	20
市民によるボランティア活動	21
V 統計	22
ぎよぎよランド入場者数	22
赤塚山公園ふれあい実績	23
VI 飼育生物リスト	24
VII 寄贈物一覧	25
VIII 観察・調査・活動報告	26
白川の生き物調べとミニ水族館展示による地域協働型環境学習	27
豊川市内白川におけるカマキリ（アユカケ）の記録	33
豊川市および新城市におけるヒメダカの確認記録	34
豊川市におけるヒラテテナガエビの初記録	36
愛知県武豊町におけるカワバタモロコの旧生息地の推定 — 赤塚山公園で飼育されている個体群の由来を中心に —	38
豊川市赤塚山公園アニアニまあるにおけるウシガエルの出現状況	43
豊川市赤塚山公園におけるハラビロカマキリの褐色型の確認記録	47
豊川市におけるムネアカハラビロカマキリ初記録	49
豊川市市田町におけるチャイロスズメバチの確認事例	51
民間事業者と連携した自然観察会の有料化について	52
編集後記	54

園長あいさつ



豊川市赤塚山公園
園長 岩村 彰久

赤塚山公園は、平成5年7月24日に豊川市制施行50周年記念事業として開園した公園で、今年で開園から33年になります。この33年の間には、幼稚園や保育園、小学校に通っていた頃にお父さんやお母さんと一緒に遊びに来ていた子や、飼育員の話の聞いたり動物とのふれあいを体験したりしていた子が、今では成長して大人となりました。そして親となって自分の子どもを連れて来る姿や、仲間たちと連れ立って遊びに来ている若者たちも見掛けます。また親として子どもを連れてきていた方々は歳を重ね、健康のために「花しょうぶ園」や「梅園」など季節の花を楽しみながらの散策にご来園される方もみえます。祖父母から親、そして孫世代までの三世代交流の場として、生き物や自然に親しみながら過ごせる公園となっています。

赤塚山公園には、淡水魚水族館である「ぎよぎよランド」と身近な小動物を集めた「アニアニまある」があります。「ぎよぎよランド」では、外来種や絶滅危惧種に関する現状と問題提起を意識した展示を行っており、「アニアニまある」では、乗馬体験や餌やりなどの動物とのふれあいも行っています。また、市内の小中学校に飼育員が出向き、川の生き物調査や動物飼育に関する講話を行う「学習プログラム」にも力を入れています。これらはいずれも、命の大切さと自然環境保全の必要性を伝える場として、子ども達には貴重な学びの場となっているのではないのでしょうか。

開園から一貫したこうしたコンセプトと同時に、時代の変化にも対応すべく、飲食機能の導入には、民間事業者の力も借りています。民間事業者は、珈琲などが楽しめる「あかつかテラス」の運営や、賑わいの創出を目的とした各種イベントを開催しており、多くのキッチンカーの出店もあります。加えて、それらの情報発信には、SNSを最大限活用することにより、今まではどちらかというあまり見掛けなかった若者世代の来園者が多く見られるようになりました。

赤塚山公園が豊川市総合計画では「シティセールスを推進していく施設」と位置付けられる中で、今では年間40万人もの来園者がある、市内では豊川稲荷に次ぐ観光資源として、市内外の多くの皆様に利用していただいています。これもひとえに、ご来園の皆様や地元市田町内会を始め市民の方々、そして各方面の関係者の方々など、多くの皆様のご協力のお陰であると、心より感謝申し上げます。

これからも益々多くの方々から愛され親しまれ、笑顔あふれる公園を目指してまいりますので、今後とも、なお一層のご利用とご支援をよろしくお願い申し上げます。

I 施設案内

豊川市赤塚山公園

所在地:愛知県豊川市市田町東堤上1番地30 敷地面積:25.1ha 標高:30.9m

駐車場:469台(無料) 休園日:毎週火曜日、年末年始、臨時休業日あり 入園料:無料





ぎょぎょランド館内案内図



アニアニまある案内図



おもな施設

1 ギョギョランド（淡水魚水族館）

平成5年7月24日オープン

鉄筋コンクリート2階建

延床面積：1,610㎡（1階1,035㎡、2階575㎡）

展示状況（令和7年3月現在）:

東三河の魚類、両生類、爬虫類など	34水槽	72種	2,157匹
世界の熱帯魚	3水槽	12種	168匹



ギョギョランド（淡水魚水族館）

2 市民のスクエア（多目的広場）

平成5年7月24日オープン

平成29年4月1日リニューアル（人工芝）

グラウンド面積：10,350㎡

照明設備：照明塔6基（200ルクス）

付属設備：野外ステージ、更衣棟、トイレ

有料施設



市民のスクエア（多目的広場）

3 水の広場（流水広場）

平成5年7月24日オープン

平成25年4月1日リニューアル

令和5年4月1日リニューアル

広場面積：4,000㎡

遊水池面積：300㎡

施設：ライン噴水・ぴよんぴよん噴水（令和5年4月1日）



水の広場（流水広場）

4 花見広場

平成5年7月24日オープン

面積：4,000㎡ 桜（品種：ソメイヨシノなど）25本

その他：花見広場以外の園内にヒマラヤザクラ（12月開花）や薄墨桜（ウスズミザクラ）、シダレザクラを植栽。歴史の道南側斜面には、市民から寄贈していただいた河津桜（カワヅザクラ）を26本植栽。

施設：トイレ



花見広場

5 歴史の道

平成6年4月1日オープン

平成30年3月1日リニューアル

面積：13,000㎡

施設：古墳、ミニチュア石室



歴史の道

6 アニアニまある（小動物広場）

平成7年7月21日オープン

平成26年4月19日リニューアル

令和5年4月1日リニューアル

広場面積：5,000㎡

展示状況（令和7年3月現在）：哺乳類：6種 53頭

鳥類：2種 4羽

施設：動物飼育棟、さんさん広場、すくすくファーム
もふもふ広場（令和5年4月1日）、トイレ



アニアニまある（小動物広場）

7 花しょうぶ園

平成9年4月1日オープン

面積：2,350㎡

植栽数（令和7年3月現在）：約5,000株

花しょうぶまつり：5月25日～6月10日



花しょうぶ園

8 梅園

平成9年4月1日オープン
面積：4,900㎡
植栽数(令和7年3月現在)：25品種 267本
梅まつり：2月15日～3月15日
施設：トイレ



梅園

9 赤塚山散策路

平成10年4月1日オープン
面積：19,000㎡
散策路総延長：650m
赤塚山標高80m



赤塚山散策路

10 弘法山エリア

東側 平成13年4月1日オープン
西側 平成14年4月1日オープン
面積：62,000㎡
散策路総延長：1,680m
施設：展望楼
片瀬山標高92.4m



弘法山エリア

11 宮池エリア・わくわくパーク

平成15年7月5日オープン
令和5年4月1日リニューアル
面積：34,000㎡
施設：昆虫の遊具(カブトムシなど)、蝶の遊具(令和2年3月17日)
ロングすべり台(全長41m・幅50cm)
ワイドすべり台(全長6m・幅2m)、管理棟、展望デッキ、トイレ
大型遊具(令和5年4月1日)



宮池エリア

12 市田の森エリア

平成16年3月31日オープン
面積：23,000㎡
散策路総延長：290m
御山標高72.3m



市田の森エリア

13 東池エリア

平成16年3月31日オープン
面積：25,000㎡
散策路総延長：676m
その他：園路に市民から寄贈していただいたシダレザクラを13本植栽。



東池エリア

14 あかつかテラス

令和5年4月1日オープン
面積：359㎡
施設：公募対象公園施設
「GOOD TIME PLACE」 produced by ITOKO
特定公園施設 休憩施設



あかつかテラス

Ⅱ できごと

[令和3年度(2021)]

令和3年

- 4月7日 特別展「魚の陶器展」豊川市市田町 平田三男氏(～26日)
- 29日 新型コロナウイルス感染症予防のため、ふれあい中止および
アクアギャラリーII 閉鎖(～5月11日)
- 5月12日 新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言発出のため、ふれあい中止および
アクアギャラリーII 閉鎖(～6月20日)
- 24日 花しょうぶまつり(～6月13日)
- 6月5日 梅収穫体験(6日) 緊急事態宣言発出のため中止
- 27日 第16回赤塚山公園自然観察会「カタツムリの観察」
- 7月1日 七夕飾り(～7日)
- 16日 第17・18回赤塚山公園自然観察会「ナイトツアー」(17日)
- 25日 専門職員(飼育員)採用第1次試験
- 29日 オンラインサマースクール①「バックヤード見学」
- 8月1日 オンラインサマースクール②「バックヤード見学(後半)」
- 2日 FacebookLIVEシエスタアニアニまある①「ミニブタ」
- 4日 こども環境学習講座「音羽川水生生物調査団」講師派遣(豊川市環境課)
- 8日 オンラインサマースクール③「オンラインぎよぎよットーク①カエル」
- 8日 カブトムシ大相撲大会(昆虫の会)
- 9日 FacebookLIVEシエスタアニアニまある②「ウサギ・モルモット」
- 13日 特別展示「音羽川水生生物調査団」(～9月6日)
- 15日 オンラインサマースクール④「こどもZoom相談室」
- 16日 FacebookLIVEシエスタアニアニまある③「たまご」
- 19日 ヤギ2頭仲間入り
- 22日 オンラインサマースクール⑤「オンラインぎよぎよットーク②魚の色」
- 23日 FacebookLIVEシエスタアニアニまある④「ポニー」
- 27日 緊急事態宣言発出のためアクアギャラリーII を閉鎖(～9月30日)
- 30日 専門職員(飼育員)採用第2次試験
- 9月1日 ヤギの名前募集(～10日)
- 1日 特別展示「ネコギギ」(～27日)
- 7日 第1駐車場(一部利用可)、水の広場再生工事のため使用中止(～令和4年3月)
- 12日 ヤギの名前発表 Facebookライブ「ひかり&きらり」
- 20日 第19回赤塚山公園自然観察会「キノコの観察」 Facebookライブ
- 27日 専門職員(飼育員)採用第3次試験
- 10月9日 中市場溜池かいぼり講師派遣(野田・中市場の「農地・水・環境」を守る会)
- 10日 赤塚山公園写生大会(～11月29日)
- 22日 秋のぎよ長の水族館(～24日)
- 11月21日 サンテパルクたはら サンテマルシェ「出張ぎよぎよランド移動水族館」
- 28日 秋のイベント(昆虫の会)
- 12月8日 赤塚山公園梅園剪定ボランティアの会 梅の剪定作業(9日)
- 10日 ヤギ1頭仲間入り

- 20日 ヤギの名前募集(~1月10日)
- 令和4年
- 1月5日 赤塚山公園写生展(~31日)
- 16日 第20回赤塚山公園自然観察会「バードウォッチング」
- 16日 ヤギの名前発表 インスタライブ「ひなた」
- 29日 全国動物園水族館教育研究会web大会参加(30日)
- 2月9日 赤塚山公園の“いいとこ撮り”写真展(~3月14日)
- 10日 梅まつり(~3月15日)
- 23日 アクアギャラリーI 改修工事のため閉鎖
- 3月18日 第1駐車場工事完了

[令和4年度(2022)]

令和4年

- 4月9日 「しぜんとあそぼう」通常再開
- 29日 GWイベント「ぎよぎよットーク」(5月1日、4日)
- 30日 GWイベント「しぜんとあそぼう」(5月3日)
- 5月5日 赤塚山公園クイズ ウォーキングラリー
- 8日 「ぎよぎよットーク」通常再開
- 25日 花しょうぶまつり(~6月15日)
- 6月4日 梅収穫体験(5日)
- 12日 「とよかわ農業市」(豊川市農務課)
- 19日 第21回赤塚山公園自然観察会「カタツムリの観察」
- 30日 ポニー1頭仲間入り
- 7月1日 アニアニまある リニューアル工事のため休園
- 1日 七夕飾り(~7日)
- 10日 ポニーの名前募集(~31日)
- 10日 子ども工作教室「くるくるひまわり」(サンテパルクたはら)
- 17日 「とよかわ農業市」(豊川市農務課)
- 29日 第22・23回赤塚山公園自然観察会「ナイトツアー」
新型コロナウイルス感染症まん延防止のため中止(30日)
- 31日 カブトムシ大相撲大会(昆虫の会)
- 8月1日 飼育員のおしごとたいけん隊(8・15・29日)
新型コロナウイルス感染症まん延防止対策のため中止
- 6日 「かおりとにおいを体験してみよう」(豊川市環境課)
- 11日 ポニーの名前発表 インスタライブ「カケル」
- 10月2日 第24回赤塚山公園自然観察会「キノコの観察」
- 5日 特別展示「ネコギギ」(~11月7日)
- 21日 秋のぎよ長の水族館(~10月23日)
- 11月13日 「とよかわ農業市」(豊川市農務課)
- 20日 サンテパルクたはら サンテマルシェ「出張ぎよぎよランド移動水族館」
- 26日 自然観察会(豊川市公園緑地課)
- 27日 昆虫の会 秋のイベント「森の工作」
- 12月7日 赤塚山公園梅園剪定ボランティアの会 梅の剪定作業(8日)
- 11日 「とよかわ農業市」(豊川市農務課)

令和5年

- 1月20日 全国動物園水族館教育研究会 札幌大会 WEB参加 (21日)
- 21日 第25・26回赤塚山公園自然観察会「バードウォッチング」(22日)
- 2月8日 赤塚山公園の” いいところ撮り” 写真展(~4月17日)
- 10日 梅まつり (~3月15日)
- 12日 「とよかわ農業市」(豊川市農務課)
- 3月4日 市民のスクエア塗装ボランティア PPGジャパン
- 5日 子ども工作教室「くるくるチューリップ」(サンテパルクたはら)
- 12日 「とよかわ農業市」(豊川市農務課)
- 20日 展望楼塗装ボランティア

[令和5年度(2023)]

令和5年

- 4月1日 リニューアルオープンイベント
- 5月5日 赤塚山公園ウォーキングクイズ
- 25日 花しょうぶまつり (~6月10日)
- 6月1日 特別展示「知ろう！条件付き特定外来生物」(~26日)
- 3日 梅収穫体験(4日)
- 19日 豊川調査(豊川市当古町・豊橋市賀茂町)
- 25日 第27回赤塚山公園自然観察会「カタツムリの観察」
- 26日 豊川調査(豊橋市高洲町)
- 28日 特別展示「第三の外来種~豊川支流で採集されたヒメダカ~」(~7月17日)
- 7月1日 七夕飾り(~7日)
- 3日 豊川調査(新城市野田)
- 9日 子ども工作教室「くるくるひまわり」(サンテパルクたはら)
- 21日 「にわたりの遊具に名前を付けよう」募集開始(~8月6日)
- 28日 第28・29回赤塚山公園自然観察会「ナイトツアー」(29日)
- 8月2日 子ども環境体験ツアー(豊川市環境課)「音羽川水生生物調査団」
- 2日 しいくいんのおしごとたいけん隊「ぎよぎよランド編①」
- 9日 しいくいんのおしごとたいけん隊「アニアニまある編①」
- 16日 しいくいんのおしごとたいけん隊「ぎよぎよランド編②」
- 23日 しいくいんのおしごとたいけん隊「アニアニまある編②」
- 23日 30周年記念企画展「ミニ水族館」(~9月24日)
- 9月2日 赤塚山公園開園30周年記念イベント
- 4日 豊川調査(新城市只持)
- 9日 救急フェア(豊川市消防署)
- 18日 バックヤードツアー(豊川市観光協会)
- 25日 豊川調査(新城市日吉)
- 10月1日 第30回赤塚山公園自然観察会「キノコの観察」
- 2日 豊川調査(設楽町清崎)
- 4日 特別展示「ネコギギ」(~11月5日)
- 8日 赤塚山公園写生大会(~11月30日)
- 12日 モルモットのふれあいと工作(豊川市観光協会)

- 12日 企画展「スマイル100フォト」(～11月13日) (鈴木写真館)
- 21日 「豊川市小中学校作品展」(22日) (豊川市学校教育課)
- 27日 秋のぎよ長の水族館(～29日)
- 29日 ネコギギ保全シンポジウム(いなべ市)ポスター発表
- 11月16日 豊川調査(設楽町東納庫)
- 19日 サンテパルクたはら サンテマルシェ「出張ぎよぎよランド移動水族館」
- 22日 かべやふようさんぬりえ作品展「みんながかいたオリジナルキャラクター」(～12月25日)
- 12月4日 赤塚山公園梅園剪定ボランティアの会 梅の剪定作業(6日)
- 1月6日 赤塚山公園写生展(～1月31日)
- 21日 第31・32回赤塚山公園自然観察会「バードウォッチング」(28日)
- 2月7日 赤塚山公園のいいところ撮り写真展(～3月11日)
- 15日 梅まつり(～3月15日)
- 3月10日 子ども工作教室「くるくるチューリップ」(サンテパルクたはら)
- 25日 絵本作家かべやふようさん原画寄贈式

[令和6年度(2024)]

令和6年

- 4月4日 イオンモール豊川 キッズドリームチャレンジ出展(5日)
- 5月5日 赤塚山公園ウォーキングクイズ
- 25日 花しょうぶまつり(～6月10日)
- 25日 豊川市民まつり「おいでん祭」出展(26日)
- 6月1日 梅収穫体験 1回目
- 3日 豊川調査(設楽町清崎)
- 8日 梅収穫体験 2回目 不作のため中止
- 17日 豊川調査(設楽町東納庫)
- 23日 第33回赤塚山公園自然観察会「カタツムリの観察」
- 7月1日 七夕飾り(～7日)
- 7日 親子で楽しむ自然観察バスツアー
「バックヤード見学」(東三河生態系ネットワーク協議会)
- 8日 豊川調査(豊橋市高洲町)
- 13日 子ども工作教室「くるくるひまわり」(サンテパルクたはら)
- 26日 第34・35回赤塚山公園自然観察会「ナイトツアー」(27日)
- 25日 飼育員のお仕事体験「アニアニまある」
- 8月1日 飼育員のお仕事体験「ぎよぎよランド」
- 5日 豊川調査(豊川市当古町・豊橋市賀茂町)
- 7日 子ども環境体験ツアー 音羽川水生生物調査団(豊川市環境課)
- 8日 飼育員のお仕事体験「アニアニまある」
- 15日 ぎよぎよランド午後8時まで開館(18・24日)
- 22日 飼育員のお仕事体験「ぎよぎよランド」
- 28日 あかつか縁日(～9月1日) 荒天のため中止
- 9月9日 豊川調査(新城市野田)
- 29日 第36回赤塚山公園自然観察会「キノコの観察」
- 10月1日 2023豊川調査報告書発行

- 2日 特別展示「ネコギギ」（～11月4日）
- 14日 イオンモール豊川 キッズドリームチャレンジ出展
- 19日 豊川市小中学校作品展（20日）（豊川市学校教育課）
- 21日 豊川調査（新城市日吉）
- 25日 秋のぎょ長の水族館（～10月27日）
- 26日 奥三河自然環境シンポジウム「自然を守るためにできること」出席
- 11月11日 豊川調査（新城市只持）
- 11月13日 特別展示「クロゲンゴロウ」（～12月9日）
- 12月9日 赤塚山公園梅園剪定ボランティアの会 梅の剪定作業

令和7年

- 1月18日 みんなの笑顔写真撮影会
- 16日 第37・38回赤塚山公園自然観察会バードウォッチング（26日）
- 2月12日 「流れの水槽下流2」メンテナンスのため展示中止（～18日）
- 14日 みんなの笑顔写真展（～3月17日）
- 15日 梅まつり（～3月15日）
- 3月5日 「アクアギャラリーII」 円柱水槽の更新のため閉鎖（～10日）
- 8日 子ども工作教室「くるくるチューリップ」（サンテパークたはら）

Ⅲ

組織

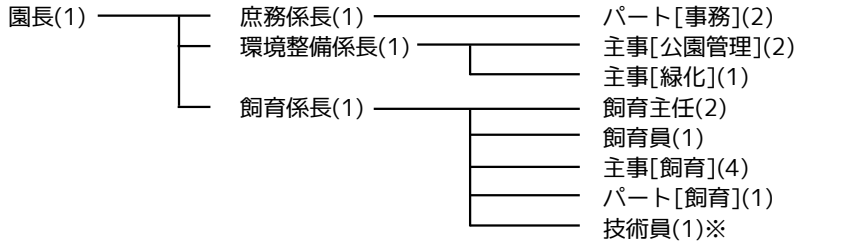
※（ ）内の数字は、人数

○令和3年度(4月1日付)

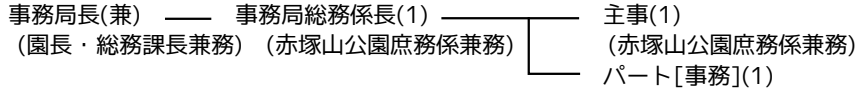
豊川市(設置者)

豊川市施設管理協会(指定管理者)

・赤塚山公園



・施設管理協会事務局



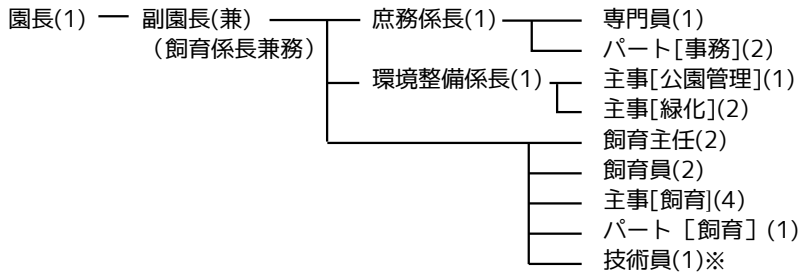
職員の構成 21人 [協会職員20人、※豊川市職員1人]

○令和4年度(4月1日付)

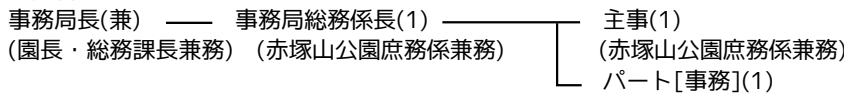
豊川市(設置者)

豊川市施設管理協会(指定管理者)

・赤塚山公園



・施設管理協会事務局



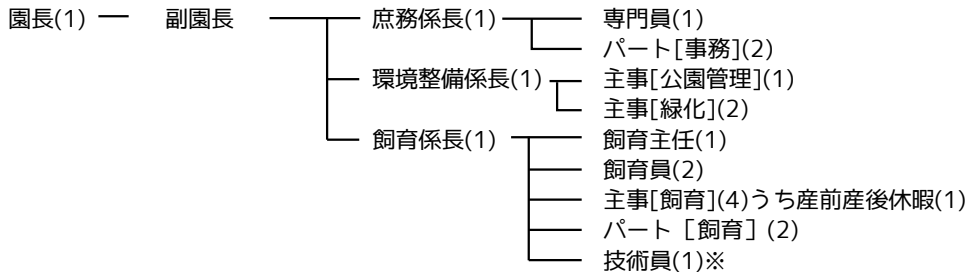
職員の構成 23人 [協会職員22人、※豊川市職員1人]

○令和5年度(4月1日付)

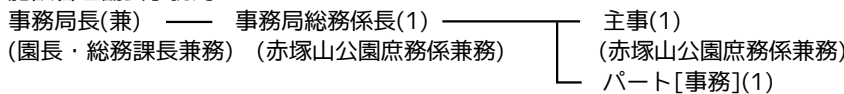
豊川市(設置者)

豊川市施設管理協会(指定管理者)

・赤塚山公園



・施設管理協会事務局



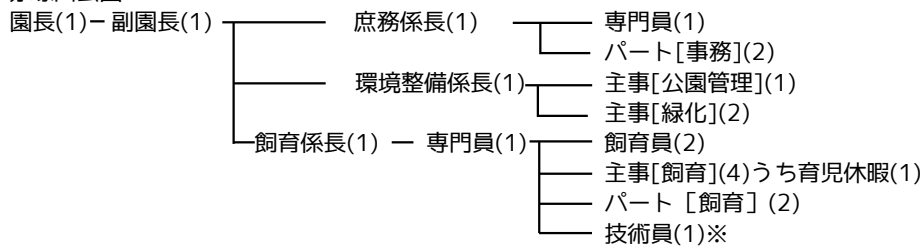
職員の構成 24人 [協会職員23人、※豊川市職員1人]

○令和6年度(4月1日付)

豊川市(設置者)

豊川市施設管理協会(指定管理者)

・赤塚山公園



・施設管理協会事務局

事務局長(兼)

事務局総務係長(1)

主事(1)

(園長・総務課長兼務) (赤塚山公園庶務係兼務)

(赤塚山公園庶務係兼務)

パート[事務](1)

職員の構成 24人 [協会職員23人、※豊川市職員1人]

○赤塚山公園歴代施設長

管理室長

平成5年7月~平成8年3月

白井 勝

平成8年4月~平成11年3月

清川 民啓

平成11年4月~平成12年3月

笠原 正人

平成12年4月~平成14年3月

渡辺 忠義

園長

平成14年4月~平成14年9月

渡辺 忠義

平成14年10月~平成15年3月

森 東明

平成15年4月~平成17年3月

山口 孝之

平成17年4月~平成21年3月

松田 正一

平成21年4月~平成23年3月

武田 寅二

平成23年4月~平成28年3月

清川 民啓

平成28年4月~令和3年3月

平澤 秀彰

令和3年4月~令和7年3月

柴谷 好輝

令和7年4月~

岩村 彰久

○ぎょぎょランド名誉館長

平成5年7月12日~平成27年3月31日

安原 健允(日本大学教授,名誉教授)

IV 教育普及活動

○学習プログラム

1) 出前授業

[令和3年度]

令和3年5月27日	豊川市立中部中学校	2年	45人	職業講話
6月21日	豊川市立平尾小学校	3年	64人	川の生き物探し
22日	豊川市立三蔵子小学校	4年	115人	ウサギの飼い方
23日	豊川市立長沢小学校	4年	25人	ウサギの飼い方
28日	豊川市立平尾小学校	3年	64人	川の生き物調べ(西古瀬川)
30日	豊川市立八南小学校	2年	97人	川の生き物調べ(西古瀬川)
7月16日	豊川市立八南小学校	4年	98人	川の生き物調べ(白川)
7月2日	新城市ちさとプレーパーク(3日)		160人	講師派遣(生き物調査)
8月25日	豊川市赤坂児童クラブ		25人	モルモットのふれあいと命のはなし
10月1日	豊川市立萩小学校	4年	11人	山陰川の生き物調査
6日	豊川市立萩小学校	4年	11人	川の生き物しらべ(室川)
8日	豊川市立天王小学校	3年	43人	ウコッケイの世話の仕方
26日	豊川市立一宮東部小学校飼育委員会		25人	ウサギの飼い方
28日	新城市立東郷中学校	1年	82人	職業講話会
11月12日	豊川市立一宮中学校	2年	25人	職業講話会

[令和4年度]

令和4年5月10日	新城市立東郷西小学校	3年	45人	学校池のアドバイス
6月6日	豊川市立豊川小学校	3年	57人	ウサギ・チャボの飼育について
8日	豊川市立三蔵子小学校	4年	102人	ウサギとのふれあい・命の授業
22日	新城市立東郷西小学校	3年	45人	学校池のアドバイス
24日	豊川市立平尾小学校	3年	51人	川の生き物調べ(白川)
27日	豊川市立平尾小学校	3年	51人	川の生き物調べ(西古瀬川)
7月2日	新城市ちさとプレーパーク(3日)		59人	講師派遣(生き物調査)
4日	豊川市立東部小学校	4年	80人	ウサギの飼育について
9月21日	新城市立東郷西小学校	3年	45人	川の生き物調べ
28日	豊川市立八南小学校(30日)	2年	120人	川の生き物調べ(西湖瀬川)
10月13日	豊川市立八南小学校	4年	108人	川の生き物調べ(白川)
17日	豊川市立代田中学校	3年	15人	講師派遣(職業講話)
19日	新城市立千郷小学校	4年	90人	川の生き物について
22日	新城市ちさとプレーパーク(23日)		40人	講師派遣(生き物調査)
11月8日	豊川市立中部中学校	2年	40人	講師派遣(職業講話)
15日	新城市立東郷中学校	1年	76人	講師派遣(職業講話)
12月5日	愛知大学文学部・ 地域政策学部	1~4年	18人	講師派遣(出張講義)
令和5年2月16日	豊川市立千両小学校	2年	18人	モルモットのはなし

[令和5年度]

令和5年5月26日	豊川市立八南小学校	4年	109人	川の生き物調べ(白川)
6月21日	豊川市立平尾小学校	3年	55人	川の生き物調べ(白川)

23日	豊川市立八南小学校	2年	66人	川の生き物調べ(西古瀬川)
30日	豊川市立八南小学校	2年	66人	川の生き物調べ(西古瀬川)
7月5日	豊川市立八南小学校	2年	66人	川の生き物調べ(西古瀬川)
9月8日	豊川市立三蔵子小学校	4年	113人	ウサギのはなし
15日	豊川市立国府小学校	2年	67人	川の生き物調べ(音羽川)
27日	豊川市立萩小学校	4年	10人	川の生き物調べ(山陰川)
28日	豊川市立国府小学校	2年	67人	川の生き物調べ(音羽川)
28日	豊川市立八南小学校	4年	109人	生き物と調査の結果
29日	豊川市立萩小学校	4年	10人	川の生き物調べ(室川)
10月13日	豊川市立萩小学校	4年	10人	川の生き物調べ(室川)
14日	新城市ちさとプレーパーク		15人	講師派遣(生き物調査)
11月10日	新城市立東郷中学校	1年	20人	講師派遣(職業講話)
16日	豊川市立豊小学校	1年	63人	モルモットと命のはなし
1月18・25日	豊川市立国府小学校	2年	134人	ウサギのはなし
[令和6年度]				
令和6年5月24日	豊川市立八南小学校	4年	59人	川の生き物調べ(白川)
6月5日	豊川市立八南小学校	4年	59人	川の生き物調べ(白川)
13日	豊川市立平尾小学校	3年	58人	川の生き物調べ(白川)
19日	豊川市立豊川小学校	3年	70人	ウサギの飼い方・さわり方
20日	豊川市立平尾小学校	3年	58人	川の生き物調べ(西古瀬川)
26日	豊川市立萩小学校	4年	12人	川の生き物調べ(山陰川)
7月5日	豊川市立萩小学校	4年	12人	川の生き物調べ(室川)
10日	豊川市立萩小学校	4年	12人	川の生き物調べ(室川)
9月26日	豊川市立国府小学校	4年	72人	生き物調査(音羽川)
10月10日	豊川市立中部小学校 特別支援学級		28人	モルモットのふれあい
11日	新城市立東郷西小学校	5年	45人	モルモットのふれあい
30日・31日	豊川市立三蔵子小学校	4年	90人	ウサギのはなし
1月23日・24日	豊川市立国府小学校	2年	122人	モルモットのふれあい
2月10日	豊川市立千両小学校 特別支援学級		15人	モルモットのふれあい
3月7日	第250回東三河牛さん交流会			講師派遣
7月5日	豊川市立萩小学校	4年	12人	川の生き物調べ(室川)
10日	豊川市立萩小学校	4年	12人	川の生き物調べ(室川)
9月26日	豊川市立国府小学校	4年	72人	生き物調査(音羽川)
10月10日	豊川市立中部小学校 特別支援学級		28人	モルモットのふれあい
11日	新城市立東郷西小学校	5年	45人	モルモットのふれあい
30日・31日	豊川市立三蔵子小学校	4年	90人	ウサギのはなし
1月23日・24日	豊川市立国府小学校	2年	122人	モルモットのふれあい
2月10日	豊川市立千両小学校 特別支援学級		15人	モルモットのふれあい
3月7日	第250回東三河牛さん交流会			講師派遣

2) 職場体験・職場インタビュー

[令和3年度]

令和3年10月20日	豊川市立代田中学校(～22日)	2年	1人	職場体験
11月10日	豊川市立代田中学校(～11日)	2年	1人	職場体験

12月2日	豊川市立西部中学校(3日)	2年	1人	職場体験
[令和4年度]				
令和4年5月18日	豊川市立西部中学校(～20日)	2年	1人	職場体験
9月8日	豊川市立音羽中学校	2年	1人	職場体験
10月3日	愛知県立有教館高等学校	1年	3人	職場インタビュー
6日	豊川市立代田中学校(～7日)	2年	1人	職場体験
12日	豊川市立東部中学校(～14日)	2年	1人	職場体験
20日	豊川市立南部中学校(～21日)	2年	1人	職場体験
11月9日	豊川市立代田中学校(～10日)	2年	1人	職場体験
[令和5年度]				
令和5年5月24日	豊川市立東部中学校(～26日)	2年	1人	職場体験
31日	豊川市立一宮中学校(～6月2日)	2年	1人	職場体験
9月6日	豊川市立音羽中学校(～8日)	2年	1人	職場体験
13日	豊川市立西部中学校(～14日)	2年	1人	職場体験
10月4日	豊川市立代田中学校(～6日)	2年	1人	職場体験
18日	豊川市立小坂井中学校(～20日)	2年	1人	職場体験
11月8日	豊川市立代田中学校(～9日)	2年	1人	職場体験
29日	豊川市立金屋中学校(～12月1日)	2年	1人	職場体験
12月14日	豊川市立南部中学校(～15日)	2年	1人	職場体験
[令和6年度]				
令和6年5月23日	豊川市立中部中学校(～24日)	2年	1人	職場体験
29日	豊川市立東部中学校(～30日)	2年	1人	職場体験
6月5日	豊川市立小坂井中学校(～6日)	2年	1人	職場体験
9月4日	豊川市立音羽中学校(～6日)	2年	1人	職場体験
9月11日	豊川市立南部中学校(～13日)	2年	1人	職場体験
10月17日	豊川市立代田中学校(18日)	2年	1人	職場体験
10月30日	豊川市留津一宮中学校(31日)	2年	1人	職場体験
11月20日	豊川市立中部中学校(～22日)	2年	1人	職場体験
11月27日	豊川市立金屋中学校(～29日)	2年	1人	職場体験

3) 愛知県小中高校教職員研修

[令和3年度]

実施なし

[令和4年度]

(夏季実技研修)

8月22日 豊川市教員生活科主任会 48人
(ドングリ工作、卵殻のモザイク画)

[令和5年度]

(夏季実技研修)

8月18日 豊川市教員生活科主任会 36人
(たまご鉢づくり)

[令和6年度]

実施なし

4) インターンシップ

[令和3年度]

実施なし

[令和4年度]

9月2日 高知大学(～15日) 4年 1人 博物館実習
2月17日 専門学校ルネサンス・ペット・アカデミー(～26日)
1年 1人 インターン

[令和5年度]

10月27日 名古屋経済大学 2年 1人 豊川市役所インターン

[令和6年度]

2月5日 人間環境大学(～10日) 2年 1人 インターン
2月12日 専門学校ルネサンス・ペット・アカデミー(～23日)
1年 1人 インターン

5)ふれあい等

[令和3年度]

令和3年7月9日 豊川市立千両小学校 2年 16人 ふれあい(モルモット)
14日 豊川市立千両小学校 2年 1人 ふれあい(モルモット)
19日 豊川市立三蔵子小学校 5年 1人 ガイドツアー(バックヤード見学)
29日 しまぎき動物病院キッズクラブ 20人 ふれあい(ヤギ)
8月19日 豊川市福祉課 豊川市学習支援事業 11人 レクチャー(ウサギのふれあい)
23日 豊川市立三蔵子小学校 5年 1人 レクチャー(動物の観察)
8日 愛知県立豊橋特別支援学校 中学部
1・2年 15人 ふれあい(ヤギ・コイのエサやり)
10月14日 豊橋市立くすのき特別支援学校 小学部
1年 18人 ふれあい(ヤギ・コイのエサやり)
15日 豊川市立代田小学校 4年 102人 レクチャー(ウサギといのち)
20日 愛知県立豊橋特別支援学校 小学部
5年 7人 ふれあい(ヤギ・コイのエサやり)
29日 愛知県立豊川特別支援学校 小学部
1・2年 41人 ふれあい(ヤギのエサやり)
11月1日 豊川市立八南小学校 1年 60人 ふれあい(モルモット)
5日 豊川市立八南小学校 1年 60人 ふれあい(モルモット)
11日 豊川市立八南小学校 2年 27人 レクチャー(町たんけん)
15日 岡崎市立下山小学校・夏山小学校・宮崎小学校
1・2年 20人 ふれあい(ヤギ・コイのエサやり)

[令和4年度]

令和4年5月6日 豊川市立三蔵子小学校 2年 87人 ふれあい(モルモット)
6月1・2日 愛知県立豊川特別支援学校 小学部
1・2年 36人 ふれあい(ヤギ・コイのエサやり)
17日 蒲郡市生涯学習課 24人 ふれあい(ヤギのエサやり)
10月6日 愛知県立豊橋特別支援学校 小学部
5年 7人 ふれあい(コイのエサやり)

20日	愛知県立有教館高等学校作手校舎	1年	19人	ガイドツアー(バックヤード見学)
24日	豊川市立千両小学校	1・2年	36人	レクチャー(どんぐり工作)
11日	小牧市自然環境観察人(小牧市環境対策課)		18人	レクチャー・バックヤード見学

[令和5年度]

5月25日	豊川市立八南小学校	1年	116人	ふれあい(モルモット)
31日	愛知県立豊川特別支援学校	小学部		
		2年	24人	ふれあい(ヤギ・コイのエサやり)
6月1日	愛知県立豊川特別支援学校	小学部		
		1年	26人	ふれあい(ヤギ・コイのエサやり)
6月8日	豊川市立八南小学校	1年	116人	ふれあい(モルモット)
9日	聖隷浜松病院ひばり保育園		28人	ふれあい(ヤギ・コイのエサやり)
29日	愛知教育大附属特別支援学校	小学部	25人	ふれあい(ヤギのエサやり)
10月5日	愛知県立豊橋特別支援学校	小学部	12人	ふれあい(ヤギ・コイのエサやり)
	豊川市立代田小学校	2年	78人	ふれあい(モルモット)
6日	愛知県立豊橋特別支援学校	中学部		
		1・2年	10人	ふれあい(ヤギ・コイのエサやり)
16日	愛知教育大学附属岡崎中学校	2年	1人	レクチャー(河川のはなし)
19日	みどり保育園		17人	ふれあい(ヤギのエサやり)
23日	豊川市立金屋小学校	1・2年	93人	ふれあい(ヤギのエサやり)
11月2日	西明寺幼稚園	年少	90人	ふれあい(コイのエサやり)
20日	豊川市立千両小学校	1・2年	33人	ふれあい(ヤギのエサやり)

[令和6年度]

4月25日	愛知県立豊橋聾学校		16人	ふれあい(ヤギのエサやり)
5月17日	豊川市立八南小学校	1年	88人	ふれあい(モルモット)
23日	豊川市立八南小学校	1年	88人	ふれあい(モルモット)
29日	愛知県立豊川特別支援学校	小学部		
		2年	18人	ふれあい(ヤギ・コイのエサやり)
30日	愛知県立豊川特別支援学校	小学部		
		1年	20人	ふれあい(コイ・ヤギのエサやり)
9月19日	愛知県立みあい特別支援学校	小学部		
		1・2年	36人	ふれあい(ヤギのエサやり)
27日	田原市立福江小学校	1・2年	55人	ガイドツアー(バックヤード見学)
10月3日	愛知県立豊橋特別支援学校	小学部		
		5年	10人	ふれあい(ヤギ・コイのエサやり)
9日	愛知県立みあい特別支援学校	小学部		
		3・4年	39人	ふれあい(ヤギ・コイのエサやり)
11日	東郷西小学校	5年	45人	ふれあい(モルモット)
24日	幸田町立大草保育園	年長	40人	ふれあい(ヤギのエサやり)
25日	豊田市立豊田特別支援学校	小学部		
		6年	6人	ふれあい(ヤギのエサやり)
11月7日	西明寺幼稚園	年少	112人	ふれあい(コイのエサやり)

15日	豊川市立千両小学校	1・2年	34人	レクチャー(どんぐり工作)
28日	豊川市立代田小学校	2年	78人	ふれあい(モルモット)
令和7年3月27日	愛知県立田口高等学校	2年	5人	レクチャー(ネコギギについて)

○発行物

機関誌「あかつかやま」

平成18年2月15日に創刊し、年間6号(偶数月15日)発行しています。令和7年3月までに114号を発行しました。本誌の記事、編集は、すべて当園職員による手作りの冊子です。92号から114号までです。



○市民によるボランティア活動

「昆虫の会」

昆虫の会は、平成14年から赤塚山公園内の「宮池エリア」を中心に昆虫の魅力伝える活動を続けてこられました。夏には、「カブトムシ大相撲大会」、秋には木の実などで工作をする「森の工作」などを行い、昆虫などの自然と関わるイベントも企画していただきました。令和5年度でボランティア活動を終了されましたが、長い間、赤塚山公園の環境整備にご尽力いただき、ありがとうございました。



感謝状



カブトムシ大相撲大会

「赤塚山公園梅園剪定ボランティアの会」



梅園剪定ボランティアのみなさん



梅の剪定作業

赤塚山公園の梅園では、豊川ライオンズクラブ様、豊川中ライオンズクラブ様、豊川市婦人会連絡協議会 OB 会様から寄贈された25品種273本の梅の木を植栽しています。ボランティアの皆さんによって、毎年12月から1月の初め頃にかけて梅の整枝剪定作業をしていただきました。

平成16年までは赤塚山公園職員のみで作業を行っていましたが、平成17年からは赤塚山公園梅園剪定ボランティアの会として作業に参加していただきました。



フリーマーケット



「赤塚山公園の公園ネコボランティア

Angel Cats(エンジェルキャッツ)」

令和3年から赤塚山公園で特定の飼い主がなく、園内に住み着いているネコを適正に管理しながら共生していく地域ネコ活動をしていただいています。

毎日、赤塚山公園内の2カ所でエサや水の交換、掃除をしてくださり、保護したネコの譲渡会や赤塚山公園の公園ネコのためのフリーマーケット、募金活動も行っていただいています。



ネコの譲渡会

ぎょぎょランド入場者数

年 度	当該年度入場者数(人)	入場者数累計(人)
平成5年度	483,368	483,368
平成6年度	447,120	930,488
平成7年度	744,938	1,675,426
平成8年度	353,405	2,028,831
平成9年度	436,222	2,465,053
平成10年度	437,194	2,902,247
平成11年度	411,508	3,313,755
平成12年度	399,653	3,713,408
平成13年度	406,174	4,119,582
平成14年度	380,396	4,499,978
平成15年度	387,774	4,887,752
平成16年度	332,475	5,220,227
平成17年度	320,074	5,540,301
平成18年度	320,457	5,860,758
平成19年度	353,169	6,213,927
平成20年度	350,159	6,564,086
平成21年度	375,932	6,940,018
平成22年度	351,716	7,291,734
平成23年度	322,942	7,614,676
平成24年度	316,703	7,931,379
平成25年度	338,853	8,270,232
平成26年度	465,037	8,735,269
平成27年度	406,581	9,141,850
平成28年度	376,307	9,518,157
平成29年度	419,278	9,937,435
平成30年度	409,558	10,346,993
令和元年度	366,689	10,713,682
令和2年度	258,143	10,971,825
令和3年度	395,124	11,366,949
令和4年度	456,881	11,823,830
令和5年度	518,387	12,342,217
令和6年度	438,171	12,780,388

赤塚山公園ふれあい実績

令和3年度赤塚山公園ふれあい事業報告書

月 5月～9月	市民会館		市民会館 のふれあい		ツツジ公園		ツツジ公園 5月～9月		市民会館 5月～9月		市民会館 ふれあい		ツツジ 公園		合計 人数			
	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数				
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	160	0	0	0	0	160			
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	100	0	0	0	5	100		
8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	200	0	0	0	10	200		
9	12	417	0	0	0	0	0	0	0	8	160	0	0	0	5	23	637	
10	21	745	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	
11	14	521	0	0	0	0	0	0	0	15	280	0	0	0	0	38	1,046	
12	16	640	0	0	0	0	0	0	0	21	420	0	0	0	0	38	1,046	
1	14	547	0	0	0	0	0	0	0	4	80	0	0	0	0	40	1,126	
2	11	418	0	0	0	0	0	0	0	19	380	0	0	0	1	35	958	
3	7	280	0	0	0	0	0	0	0	1	20	0	0	0	0	30	799	
合計	95	3,420	0	0	0	0	0	0	0	21	420	0	0	0	0	9	29	731
合計	95	3,420	0	0	0	0	0	0	0	146	2,800	0	0	0	0	8	200	6,813

・8月から9月まで緊急事態宣言のため、ふれあい中止
 ・ツツジ公園、市民会館、市民会館ふれあい
 ・市民会館ふれあい、市民会館ふれあいとして中止

総合計
260回 6813人

令和4年度赤塚山公園ふれあい事業報告書

月 5月～9月	市民会館		市民会館 のふれあい		ツツジ公園		ツツジ公園 5月～9月		市民会館 5月～9月		市民会館 ふれあい		ツツジ 公園		合計 人数		
	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数			
4	16	619	0	0	4	96	0	0	22	440	1	10	4	66	0	47	1,220
5	10	384	0	0	3	138	0	0	17	340	5	62	6	76	0	41	998
6	21	709	0	0	2	45	0	0	23	466	3	42	4	53	0	52	1,378
7	0	0	0	0	0	0	0	0	21	420	4	44	3	42	0	26	508
8	0	0	0	0	0	0	0	0	22	440	0	0	0	0	1	22	440
9	0	0	0	0	0	0	0	0	19	380	4	42	4	50	0	27	472
10	0	0	0	0	0	0	0	0	22	440	5	42	5	67	0	32	549
11	0	0	0	0	0	0	0	0	19	380	4	39	4	33	0	27	452
12	0	0	0	0	0	0	0	0	20	400	4	50	4	27	0	26	482
1	0	0	0	0	0	0	0	0	20	400	4	48	4	47	0	26	495
2	0	0	0	0	0	0	0	0	19	380	3	21	4	50	0	26	451
3	0	0	0	0	0	0	0	0	20	418	3	34	4	40	0	27	492
合計	47	1,708	0	0	9	281	0	0	244	4,504	40	441	46	551	1	287	7,945

・ツツジ公園のツツジ工事をため7月から休園
 ・市民会館ふれあい、市民会館ふれあい、市民会館ふれあいとして再開
 ・緊急事態宣言のため市民会館ふれあい、市民会館ふれあい中止

総合計
387回 7945人

令和5年度赤塚山公園ふれあい事業報告書

月 5月～9月	市民会館		市民会館 のふれあい		ツツジ公園		ツツジ公園 5月～9月		市民会館 5月～9月		市民会館 ふれあい		ツツジ 公園		合計 人数		
	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数			
4	32	2,051	0	0	2	125	22	1,035	4	32	0	0	0	0	66	3,201	
5	44	1,684	0	0	3	184	22	1,056	4	58	4	50	0	0	77	3,043	
6	31	1,970	0	0	2	124	29	1,122	3	41	4	50	0	0	69	3,312	
7	32	2,079	0	0	0	0	25	1,300	4	32	3	32	4	42	66	3,489	
8	49	2,022	0	0	0	0	25	1,538	4	62	0	0	9	94	87	3,702	
9	47	1,984	2	18	0	0	24	1,062	3	54	3	30	0	0	79	3,156	
10	30	2,056	4	36	7	457	29	913	3	28	4	52	0	0	93	3,542	
11	47	1,942	4	34	11	715	24	871	4	32	4	36	0	0	94	3,630	
12	46	1,909	3	17	8	487	24	819	4	42	4	31	0	0	89	3,306	
1	43	1,708	3	25	7	385	23	859	4	48	2	18	0	0	82	3,043	
2	44	1,829	5	48	4	259	23	829	2	32	3	46	0	0	81	3,147	
3	31	2,208	4	34	0	0	26	1,301	5	81	5	65	0	0	91	3,489	
合計	578	22,448	25	210	44	2,736	282	12,810	44	542	42	482	13	126	0	1,028	40,162

総合計
1036回 40162人

令和6年度赤塚山公園ふれあい事業報告書

月 5月～9月	市民会館		市民会館 のふれあい		ツツジ公園		ツツジ公園 5月～9月		市民会館 5月～9月		市民会館 ふれあい		ツツジ 公園		合計 人数		
	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数			
4	50	2,095	3	29	6	315	25	1,134	4	66	4	48	0	0	92	3,147	
5	47	1,834	4	37	5	209	23	1,090	4	55	2	33	0	1	64	3,422	
6	50	2,041	4	38	5	200	25	921	4	66	4	51	0	0	92	3,437	
7	49	1,307	0	0	0	0	23	883	3	19	2	21	4	79	0	81	2,718
8	51	2,207	0	0	0	0	20	1,061	3	31	4	40	10	183	0	94	3,522
9	48	1,970	0	0	0	0	24	875	4	51	4	62	0	0	80	2,956	
10	49	1,979	3	28	7	446	25	854	4	61	4	39	0	0	92	3,407	
11	40	1,974	1	8	7	448	24	702	5	44	4	50	0	0	89	3,227	
12	44	1,881	3	28	8	478	24	852	4	45	3	24	0	0	86	3,106	
1	45	1,857	3	29	7	358	23	722	4	37	2	28	0	0	84	3,031	
2	42	1,732	3	28	5	294	22	888	4	33	4	43	0	0	80	2,828	
3	52	2,138	3	30	9	528	26	1,071	5	57	4	49	0	0	99	3,420	
合計	575	22,415	27	255	59	3,564	280	10,813	46	565	41	488	14	201	1	1,055	39,225

※令和6年5月 市民会館OXデス

総合計
1055回 39225人

VI 飼育生物リスト

ぎよぎよランド展示生物一覧(令和7年3月現在)

《ふれあいの池》

外 コイ(ニシキゴイ含む)

内 キンギョ

《流れの水槽》

淵 コイ, ゲンゴロウブナ, ソウギョ

肉食魚 ナマズ, ナイルティラピア, ニホンスッポン

カメ ニホンイシガメ, クサガメ, ミシシippアカミミガメ

下流1 ニホンウナギ, ウグイ, ニゴイ

下流2 オイカワ, タモロコ, ギンブナ, オオキンブナ, カマツカ, タイリクバラタナゴ

中流 アユ, カワムツ, アブラハヤ, ボウズハゼ

上流 アマゴ, ニッコウイワナ, ニジマス

《小川の流れ》

1 ヤリタナゴ, カワヒガイ, トウカイコガタスジシマドジョウ

2 ネコギギ

3 ホトケドジョウ, ツチガエル

《アクアギャラリーI》

1 ニシシマドジョウ, イトモロコ

2 カワアナゴ

3 展示中止

4 アブラボテ, ウツセミカジカ

5 カワバタモロコ, トウヨシノボリ

6 カワヨシノボリ, タカハヤ

7 ヌマムツ, スミウキゴリ

《アクアギャラリーII》

1 ヒガシニホンアマガエル

2 ヒガシニホントカゲ, ニホンカナヘビ

3 ニホンヤモリ

4 アオダイショウ

5 アカハライモリ

6 アズマヒキガエル

7 サワガニ

8 タガメ

9 トノサマガエル, ナゴヤダルマガエル

10 アカザ, ネバタゴガエル

11 モリアオガエル, モツゴ, ドジョウ, カワニナのなかま, スジエビ

12 ヒメタイコウチ, コシマゲンゴロウ, ハイイロゲンゴロウ, クロゲンゴロウ, コオイムシ

13 マハゼ

14 ウシガエル, アメリカザリガニ, スクミリンゴガイ, ホテイアオイ

15 ブルーギル, オオカナダモ

◀円型水槽▶

1F-1 レッドフィンバルブ, ポストフィッシュ, ドーキンシア・フィラメントーサ
シルバーシャーク

1F-2 レッドテールキャット, ブラックコロソマ, レッドコロソマ, モトロ

2F ミナミメダカ, ミナミヌマエビ

◀置水槽▶

シュードトロフェウス・ロンバルドイ, スキアエノクロミス・フライエリイ
ニンボククロミス・ベヌスタス, ラビドクロミス・カエルレウス

アニアニまある飼育生物一覧(令和7年3月現在)

ブタ(ミニブタ/ポットベリー)

ヤギ(雑種)

ウマ(日本ポニー)

カイウサギ(雑種), テンジクネズミ(モルモット)

ニワトリ(名古屋コーチン, ウコッケイ)

アヒル(ペキンダック)

ハムスター(ゴールデンハムスター, ジャンガリアンハムスター, ロボロフスキーハムスター)

VII 寄贈物一覧

	寄贈者名(敬称略)	寄贈物	
[令和5年度]			
令和6年			
1月17日	豊川商工会議所女性会	かべやふようさんの絵本他 (令和3年3月に寄贈していただいた図書カードで購入)	17冊
3月25日	かべやふよう	原画	1作品

- 白川の生き物調べとミニ水族館展示による地域協働型環境学習
- 豊川市内白川におけるカマキリ（アユカケ）の記録
- 豊川市および新城市におけるヒメダカの確認記録
- 豊川市におけるヒラテテナガエビの初記録
- 愛知県武豊町におけるカワバタモロコの旧生息地の推定
- 赤塚山公園で飼育されている個体群の由来を中心に —
- 豊川市赤塚山公園アニアニまあるにおけるウシガエルの出現状況
- 豊川市赤塚山公園におけるハラビロカマキリの褐色型の確認記録
- 豊川市におけるムネアカハラビロカマキリ初記録
- 豊川市市田町におけるチャイロスズメバチの確認事例
- 民間事業者と連携した自然観察会の有料化について

白川の生き物調べとミニ水族館展示による地域協働型環境学習

杉浦篤史, 前田民男
(赤塚山公園)

はじめに

豊川市赤塚山公園では、地域に根ざした環境教育の推進を目的として、近隣小学校と連携した学習プログラム(出前授業)を軸とした体験型学習を継続的に実施している。本報告では、地域河川「白川」を教材として実施した小学校との協働学習と、その成果を展示として公開した「ミニ水族館」の取り組みについて報告する。

本事業は、児童が自ら河川に入り生物を採集する体験学習と、その成果を赤塚山公園内で展示・発信することを組み合わせたものである。さらに、本事業は赤塚山公園開園30周年記念事業の一環として実施され、記念式典において児童自身が活動報告を行う機会を設けた点に特徴がある。

実施概要

本プログラムは、白川流域に位置する2校の小学校を対象に実施した。両校とも毎年、川のいきもの調べを授業に取り入れる中で、当園の学習プログラムの出前授業を利用している。両校とも、同一河川での調査であるが、調査地点は異なり、上流域と下流域という流域環境の違いを学習内容に反映できる構成とした。

豊川市立八南小学校では、2023年5月26日に白川下流域において4年生109名を対象に調査を実施した(図1, 2.)。一方、豊川市立平尾小学校では、2023年6月21日に白川上流域において3年生55名を対象に調査を行った(図3, 4.)。調査では、魚類を中心に両生類、甲殻類、貝類などを対象とし、職員の指導のもと児童自身が採集を行った。

調査後、学校の授業の中で、調べ学習として採集した生物のイラストつき展示用の生物看板(解説板)を作成した(図5, 6.)。その後、両校の児童が採集した生物を用いて、赤塚山公園ぎょぎょランド2階において「ミニ水族館」として展示を行った(図7.)。展示期間は2023年7月20日から9月18日までとし、展示レイアウトや生物の管理は職員が担当したが、展示生物は児童が実際に採集した種に限定し、授業で作成した生物の看板を種名板として展示した(図7.)。



図1. 八南小学校 1



図2. 八南小学校 2



図3. 平尾小学校 1



図4. 平尾小学校 2



図 5. 看板作成の様子



図 6. 児童が作成した看板



図 7. 展示期間中の様子

調査および展示内容

白川下流域で調査を行った八南小学校では、アユ、ウツセミカジカ、スミウキゴリ、オイカワ、ヌマムツ、カマツカ、カワヨシノボリ、などの在来種に加え、タイリクバラタナゴ、カワリヌマエビ属の一種などの外来種が確認された。また、白川で初記録となるヒラテテナガエビを確認した。下流域特有の環境条件を反映し、在来種と外来種が混在する状況を児童が直接観察する機会となった。

一方、白川上流域で調査を行った平尾小学校では、アカザ、カワムツ、カワヨシノボリ、ドンコ、などの魚類のほか、トノサマガエル、サワガニ、ヌマエビのなかま、カワニナのなかまなど清流性の生物が多く確認された。上流域の水質と生物相の関係について、体験的に学ぶことができる内容となった。

ミニ水族館の展示では、上流（平尾小学校）・下流（八南小学校）それぞれの調査結果を並列的に紹介し、同じ白川であっても環境条件により生物相が異なることを来園者に伝える構成とした。また、川での調査や学校での調べ学習の様子も写真で紹介した（図 8, 9.）。さらには展示から漏れた看板はファイルに綴じ、来館者が自由に閲覧できるようにした。



図 8. 八南小学校の展示



図 9. 平尾小学校の展示

地域への発信と波及効果

本事業の特徴として、学習成果を学校内に留めず、地域へ発信する機会を設けた点が挙げられる。赤塚山公園開園 30 周年記念式典においては、八南小学校および平尾小学校の代表児童が登壇し、白川の生き物調べとミニ水族館展示の活動報告を行った（図 10, 11.）。

児童自身が多くの来賓や市民の前で発表を行うことで、自らの学びが地域に共有されていることを実感する



図 10. 八南小学校の活動報告（記念式典）



図 11. 平尾小学校の活動報告（記念式典）

アンケートによる教育効果の評価

本事業の教育的効果を検証するため、すべての活動終了後に児童および保護者を対象にアンケート調査を実施した（図 12, 13.）。児童アンケート（n=155）（図 14.）では、「授業がためになった」「川に入って楽しく学べた」「自然の中で活動することは大切である」といった項目で高い評価が得られた。また、「生き物を守りたい」「生き物や自然を守る活動に参加してみたい」といった設問（図 15.）でも肯定的な回答が多く、環境に対する



図 12. 保護者向けアンケート
回収の負担軽減のためすべて Google フォームを使用した WEB アンケートとした



図 13. 児童向けアンケート
前半を WEB アンケート、後半を記述式とした

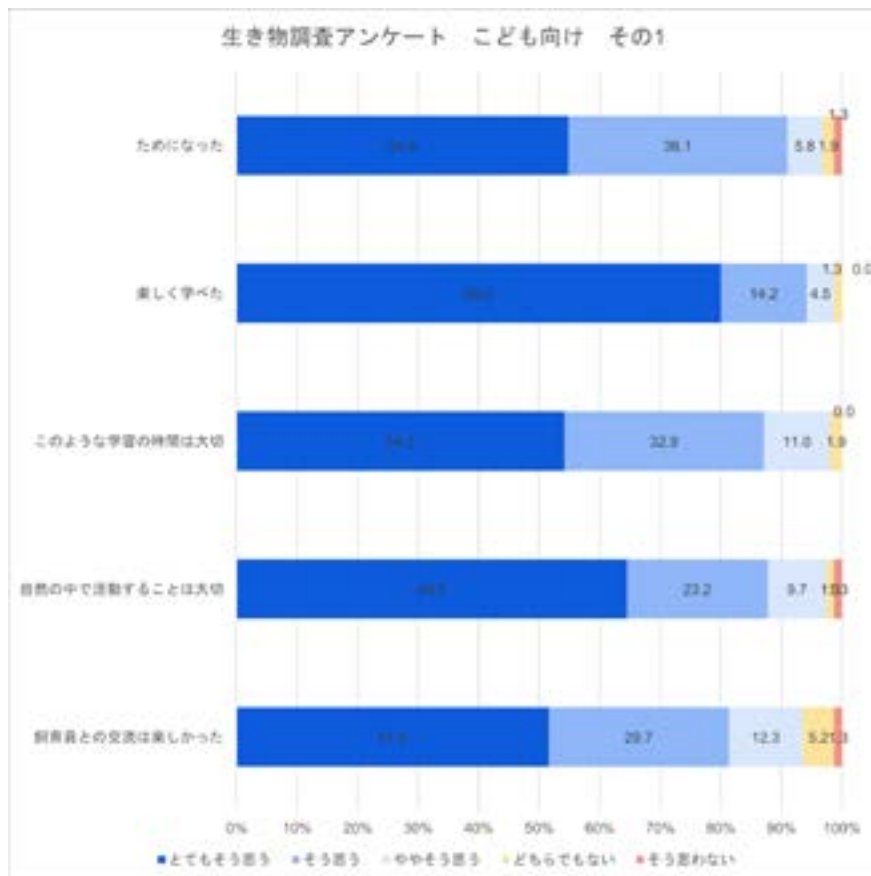


図 14. 児童アンケートその1：授業評価
全ての項目で肯定的な回答が9割以上を占めた

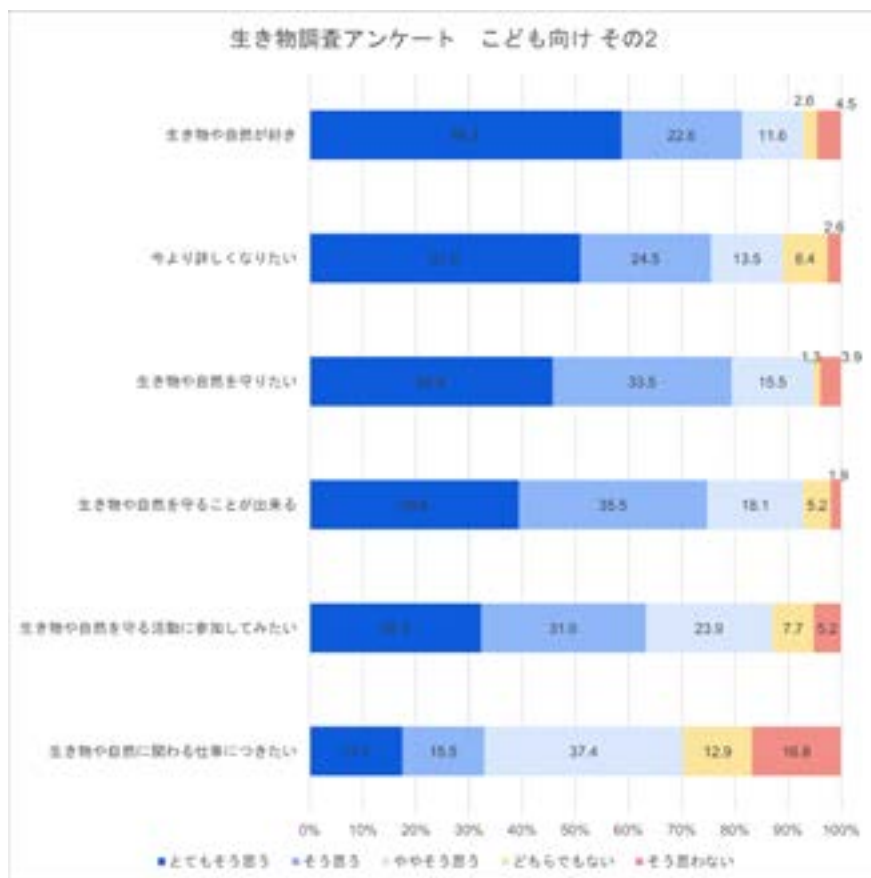


図 15. 児童アンケートその2：環境行動意欲
約9割の児童が「生き物や自然を守りたい」と回答し、体験学習を通じて環境配慮意識の形成が確認された

あなたのお子さんは、小学校での一連の授業「白川の生き物調べ」について、自宅で話しましたか。（複数回答可）

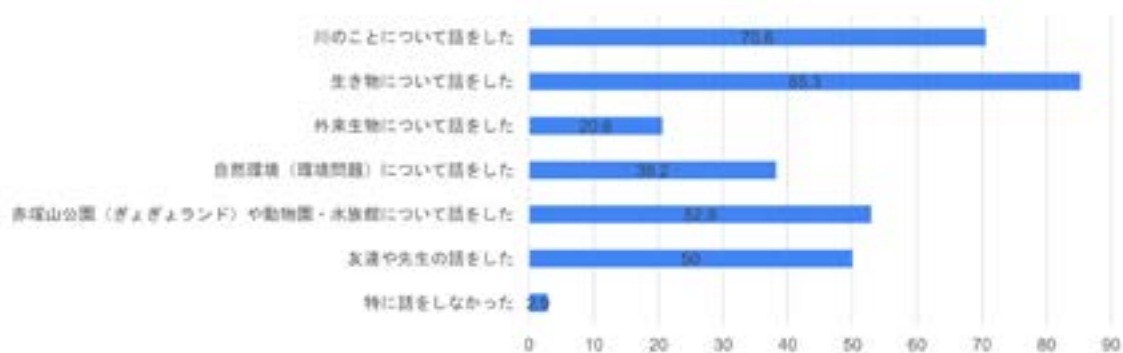


図 17. 保護者アンケート：家庭での会話内容
多くの過程で授業後に「川」「生き物」「自然環境」について話題が上がったことが示された

まとめ

本事例は、地域河川を教材とした体験学習と、水族館の展示機能を組み合わせることで、学校教育、社会教育、地域連携を結びつけた実践である。本取り組みは、赤塚山公園開園 30 周年記念事業という特別な機会を活用して実施されたものであるが、児童が「調べる」「展示する」「伝える」という一連の流れを経験したことにより、環境に対する理解や関心が高まり、将来的な行動変容につながる可能性のある基礎が形成されたと考えられる。

今後は、実施規模や方法を工夫しながら、地域資源を活用した学習と展示を連動させる取り組みについて検討し、より効果的な環境教育のあり方を探っていきたい。

豊川市内白川におけるカマキリ(アユカケ)の記録

杉浦篤史
(赤塚山公園)

はじめに

カマキリ(アユカケ) *Rheopresbe kazika* (Jordan et Starks) は、スズキ目カジカ科カジカ属に分類される淡水性魚類であり、海と川を行き来する降河回遊魚である(後藤 晃, 1989)。

愛知県内では矢作川、豊川、庄内川を含む県内の主要な水系に分布している(谷口, 2020)とされているが、音羽川水系については、これまでの主要な文献である新編豊川市史(新編豊川市史編集委員会, 1998)および音羽町史(音羽町史編さん委員会, 2005)において、カマキリの記録は記載されていない。

また、愛知県が実施した河川水辺の国勢調査において、音羽川を対象とした調査結果が公表されている。当該調査では、採集調査においてアユカケは確認されていない一方で、環境DNA調査では本種の存在が示されている(愛知県, 2023)。

2023年8月22日、豊川市内を流れる音羽川水系白川において、カマキリ1個体を採集した。本報告は、音羽川水系における本種の記録として報告するものである。

記録

豊川市(白川, 音羽川水系) 22-VIII-2023.

採集は市内を流れる白川において、押し網により1個体(体長95mm)を捕獲した(図1.)。詳細な採集地点は種の保全のため伏せる。

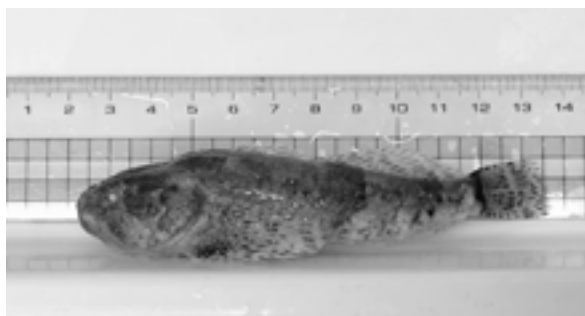


図1. カマキリ(アユカケ)

おわりに

本報告で得られた採集記録は、音羽川水系において環境DNA調査により存在が示唆されていたカマキリについて、実体として確認された記録の一例と位置づけられる。

海と川を行き来する降河回遊魚である本種は、県下全域で減少している。特に横断構造物(落差工、堰堤等)の影響により、仮に魚道が付いていても遡上が困難であり、個体数が著しく減少していると推定される(谷口, 2020)ことから、今後も継続的な調査によって本種の分布状況や生活史を明らかにしていく必要がある。

引用文献

愛知県, 2023. 河川水辺の国勢調査 音羽川調査結果. 愛知県. <https://www.pref.aichi.jp/uploaded/attachment/562486.pdf> (2025年12月20日閲覧)

音羽町史編さん委員会, 2005. 音羽町史. 第5節 淡水魚類. 音羽町, 愛知, pp. 315-330.

後藤 晃, 1989. アユカケ. 川那部浩哉・水野信彦(編), 山溪カラー名鑑 日本の淡水魚, 山と溪谷社, 東京, pp.665-657.

新編豊川市史編集委員会, 1998. 新編 豊川市史 第十巻 自然. 第4節 淡水魚類. 豊川市, 愛知, pp. 322-325.

谷口義則, 2020. 愛知県レッドデータブックあいち2020. カマキリ(アユカケ). 愛知県環境部環境保全課. <https://kankyojoho.pref.aichi.jp/rdb/index.html> (閲覧日: 2025年12月20日)

豊川市および新城市におけるヒメダカの確認記録

杉浦篤史
(赤塚山公園)

はじめに

ヒメダカ *Oryzias latipes* (人工改良品種) は、野生のミナミメダカをもとに体色変異個体を選抜・固定した観賞魚品種である。本種は本来、自然環境下に生息するものではないが、近年、河川や水路などの野外水域で確認される事例が各地で報告されている。

人工改良品種は、国外外来種・国内外来種とは異なる枠組みとして「第3の外來種」と位置づけられ、生態系、とくに在来集団への遺伝的攪乱が懸念されている(細谷, 2017)。

今回、豊川市および新城市において実施した水生生物調査において、野外水域からヒメダカが複数確認されたため、その概要を報告する。

確認状況

1. 豊川市内での確認

2022年9月28日、豊川市内を流れる西古瀬川(新堀橋付近)(図1.)において実施した学習プログラム出前授業時の水生生物調査(図2.)において、ヒメダカ1個体を捕獲した。当該地点は市街地を流れる小河川であり、流れの緩やかな区間に小規模なよどみが形成されていた。

2. 新城市内での確認

2022年10月22日および23日に、新城市の豊川支流の臼子川において実施した「ちさとプレーパーク」の水生生物調査(図3.)において、ヒメダカが多数確認された(図4, 5.)。両日および2022年11月14日に実施した追加調査を含め、合計39個体を捕獲した。

同地点では同時に、体色が野生型と判断されるメダカも3個体確認されたが、外見のみではヒメダカとの交雑個体である可能性を否定できない。

考察

ヒメダカは野生メダカと容易に交雑可能であり、野外に放流された場合、在来集団に遺伝的攪乱を引き起こすことが知られている(北川ほか, 2017)。特に体色による判別が困難な交雑世代が生じた場合、問題が顕在化しにくい点が大きな特徴である。

臼子川で短期間に多数個体を確認されたことから、単発的な放流ではなく、繰り返しの放流、あるいは一時的な定着・繁殖が起きている可能性が考えられる。同様の事例は他県でも報告されており、観賞魚メダカ全体が野外水域に拡散しつつある状況が指摘されている(堀江・伊藤, 2022)。

おわりに

ヒメダカを含む人工改良品種の野外放流は、多くの場合、悪意のない行為によって行われている。しかし、その影響は在来生物の遺伝的多様性の喪失という、取り返しのつかない結果を招く可能性がある。一度飼育を始めた生き物は、最後まで責任をもって飼育し、決して自然環境へ放さないことが重要である。今後も、調査および啓発活動を通じて、第3の外來種問題への理解を広げていきたい。

引用文献

細谷和海, 2017. 国外外来魚, 国内外来魚, そして第3の外來魚. 日本魚類学会市民公開講座 2017 要旨集, 5-7.

北川忠生・中尾遼平・中井宏施・入口友香, 2017. 野生メダカの遺伝的多様性と飼育品種メダカの遺伝的特徴. 海洋と生物, 29: 120-125.

堀江真子・伊藤玄，2022．岐阜県の野外水域における体外光メダカ（幹之メダカ）などの観賞魚メダカの標本にもとづく初記録．伊豆沼・内沼研究報告，16：63-72．



図1. 西古瀬川



図2. 学習プログラム出前授業水生生物調査



図3. プレーパーク水生生物調査



図4. 捕獲前，ワンド状のよどみにいるヒメダカ



図5. 捕獲されたヒメダカ

豊川市におけるヒラテテナガエビの初記録

浅香智也・前田民男
(赤塚山公園)

はじめに

ヒラテテナガエビ *Macrobrachium japonicum* は、テナガエビ科テナガエビ属に分類され、河川の下流域から上流域にかけて生息する両側回遊性の大型甲殻類である。国内での分布域は、太平洋側では千葉県以南、日本海側では福井県以南から南西諸島、小笠原諸島に及ぶ(豊田ほか, 2019)。

愛知県内では、田原市(尾山ほか, 2021)、豊橋市(朝倉川育水フォーラム, 2025)、豊田市(白金・浜崎, 2018)での生息が確認されているが、豊川市内での記録はこれまで見当たらなかった。

しかし、2023年5月26日に豊川市立八南小学校との合同で実施した野外授業において、豊川市内で本種の生息を確認した。これは豊川市内における本種の初記録であるため、ここに報告する。なお、この採集は、豊川市赤塚山公園開園30周年記念企画展「ぎょぎょランド×八南小学校&平尾小学校 ミニ水族館」および豊川市立八南小学校4年生の総合的な学習活動「白川の生き物調べ」の一環として実施されたものである。

記録

豊川市市田町(音羽川水系白川): 26-V-2023 (図1)。

採集は、豊川市立八南小学校の校区内を流れる白川(図2)において実施された。その結果、八南小学校4年生の児童1名が手網を用いてヒラテテナガエビ1個体(全長89.4 mm, 体長80.5 mm, 頭胸甲長28.0 mm)を採集した。

同地点で確認されたエビ類は、他にスジエビ *Palaemon paucidens* のみであった。



図1. ヒラテテナガエビ (26-V-2023, 豊川市市田町)。



図2. 白川の風景。

おわりに

豊川市立八南小学校との白川における野外授業は、2017年から2023年まで継続して実施されている。過去の調査では、当該地点からヒラテテナガエビおよびスジエビのほか、カワリヌマエビ属の一種 *Neocaridina* sp. (従来はミナミヌマエビ *Neocaridina denticulata* として報告) やアメリカザリガニ *Procambarus clarkii* の生息が確認されている(浅香, 2016)。

豊川市内の河川におけるエビ類に関する既報の記録としては、豊川市史編纂委員会(1973)、小坂井町誌編纂委員会(1976)、浅香(2016)による簡略な報告、ならびに豊川本流での調査報告(浅香ほか, 2019; 本田・日野, 2022)がある。

本報告により、豊川市内におけるエビ類の生息記録は8種目となった。しかし、現時点では豊川市全域を対象とした詳細な分布調査は行われていないため、今後の調査によって新たな種が発見される可能性も示唆される。

引用文献

- 浅香智也, 2016. 豊川市の水生生物No.1. あかつかやま 65:2-3.
- 浅香智也・鈴木誉士・中川雅博, 2019. 愛知県豊川のエビ類相. 伊豆沼・内沼研究報告 13:57-65.
- 朝倉川育水フォーラム, 2025. 朝倉川の水の育てかた. 豊川堂, 愛知, 324pp.
- 本田陸斗・日野輝明, 2022. 愛知県豊川中流域に生息する淡水性エビ類の分布と生息環境. 環動昆 33:53-61.
- 小坂井町誌編纂委員会, 1976. 小坂井町誌. 小坂井町, 愛知, 802pp.
- 尾山大知・加藤柊也・丸山智朗・乾 直人, 2021. 渥美半島周辺の河川で採集された注目すべき水生動物 14 種. 水生動物 2021-2:1-12.
- 白金晶子・浜崎健児, 2018. 矢作川中流における淡水産エビ・カニ類の生息状況. 矢作川研究 22:45-50.
- 豊川市史編纂委員会, 1973. 豊川市史. 豊川市, 愛知, 852pp.
- 豊田幸詞・関慎太郎・駒井智幸, 2019. 日本産淡水性・汽水性エビ・カニ図鑑. 緑書房, 東京, 339pp.

愛知県武豊町におけるカワバタモロコの新生息地の推定 — 赤塚山公園で飼育されている個体群の由来を中心に —

浅香智也
(赤塚山公園)

はじめに

カワバタモロコ *Hemigrammocypripis rasborella* は、日本固有のコイ科魚類で、全長 30 ～ 60 mm に達する。本種は、静岡県以西の本州太平洋側、四国地方瀬戸内海側および九州北部に分布し、平野部の池沼や灌漑用水路などを主な生息場とする。

本種は、外来種であるオオクチバス *Micropterus nigricans* やブルーギル *Lepomis macrochirus* による捕食、灌漑用水路のコンクリート化、放置による溜池の荒廃などにより減少しており、環境省レッドリストでは絶滅危惧 I B 類に指定されている(前畑, 2015)。愛知県においても同様の理由により絶滅危惧 I B 類に指定されている(浅香, 2020)。さらに、本種は特定第二種国内希少野生動植物種にも指定されている(環境省, 2020)。

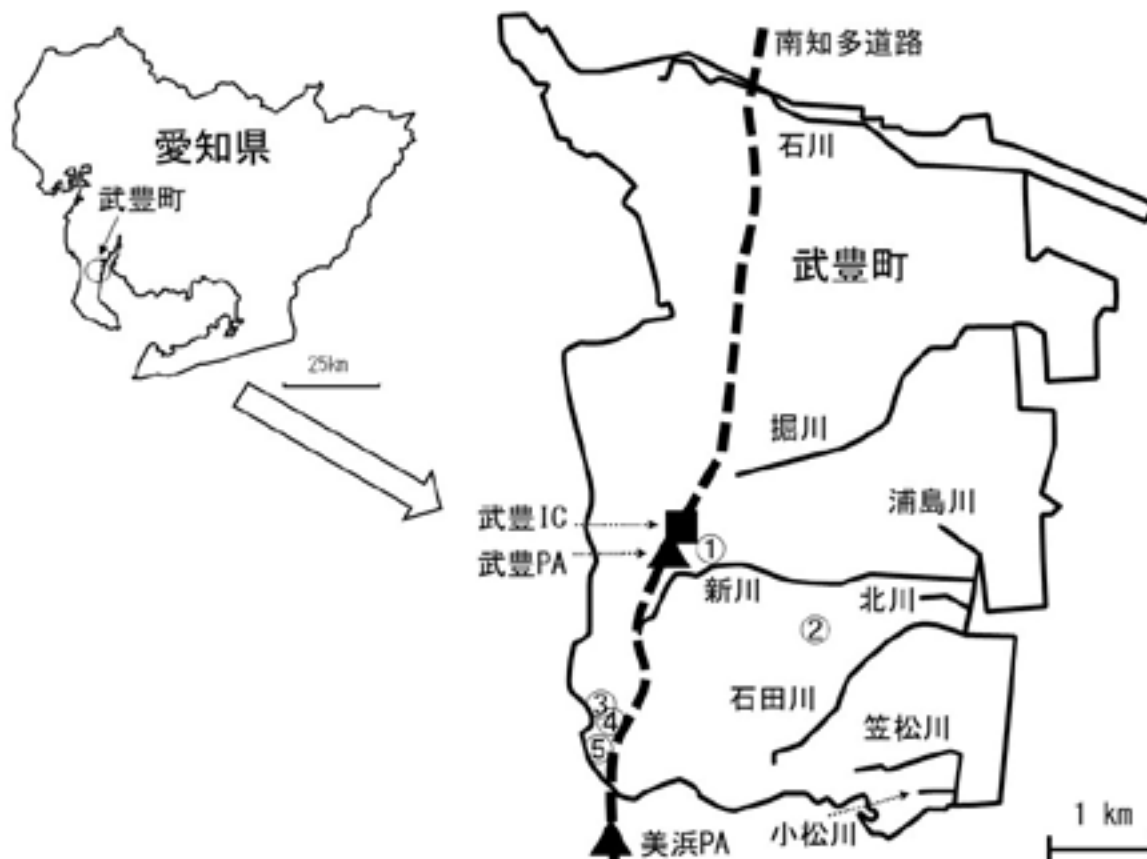


図1. 武豊町の略図(番号は現地視察の溜池; ①新砂の溜池, ②新薄里の溜池(住所変更前, 道兼の溜池), ③深谷の溜池, ④上別曾の溜池 a, ⑤上別曾の溜池 b).

武豊町は愛知県知多半島の中央部に位置し、東側が三河湾に面している(図1)。町内には、石川、堀川、浦島川、新川、北川、石田川、笠松川、小松川の8水系の河川と、数多くの溜池が存在する。

これまで、知多半島ではカワバタモロコの分布は確認されていなかった(浅香, 2020)。しかし、本種に関する新たな情報提供があり、採集地の詳細は不明であるものの、次の4点が伝えられた。

- A. 武豊町内の溜池で採集された.
- B. 南知多道路周辺の溜池である.
- C. 1996～1997年頃に環境アセスメントが行われた.
- D. 該当する溜池はすでに埋め立てられている.

この情報は、複数の研究機関や関係者の間で別々に伝えられており、当初は異なる採集記録に基づくものと考えられていた。しかし、後に記録を照合した結果、いずれも同一の採集地に関する情報であることが明らかになった。

2021年4月14日、赤塚山公園ぎょぎょランドでは、国立環境研究所から「武豊町産」とされるカワバタモロコ41個体(雄21個体,雌19個体,不明1個体)の譲渡を受け、繁殖および展示を行っている。この個体群は、採集者から国立環境研究所に寄贈され、同研究所で累代飼育されていたものである。

情報整理の結果、このぎょぎょランド個体群が、前述のA～Dの条件に該当する生息地由来であることが判明した。

本研究では、これらの情報をもとに、武豊町産カワバタモロコの旧生息地を推定するための調査を実施したので、その結果を報告する。

調査方法

本研究では、武豊カワバタモロコの生息地を推定するため、以下の5つの方法を用いた。

- (1) 武豊町役場への聞き取り調査
- (2) 文献調査
- (3) 地図の比較
- (4) 現地視察
- (5) 愛知道路コンセッション株式会社への聞き取り調査

それぞれの詳細は以下のとおりである。

- (1) 武豊町役場への聞き取り調査

町役場に対して、①カワバタモロコに関する情報の有無、②1996～1997年頃に環境アセスメントを行った溜池の有無、③2000年以前に埋め立てた溜池の有無の3点を聞き取った。

- (2) 文献調査

武豊カワバタモロコに関する記録の有無を調べた。

- (3) 地図の比較

国土地理院2万5千分の1地形図「河和」(昭和59年版および平成10年版)を比較した。また、住宅地図「はい・まっぷ南知多郡南部」(アイゼン,1994年および2018年)を用い、溜池の有無を比較した。

- (4) 現地視察

地図比較により消失が確認された溜池について、2024年12月に現地を視察した。

- (5) 愛知道路コンセッション株式会社への聞き取り調査

1996～1997年頃に環境アセスメントの記録について情報提供を受けた。

結果

調査の結果、赤塚山公園で飼育されている武豊町産カワバタモロコの正確な生息地を特定することはできなかった。しかし、A～Dの4項目の情報を総合的に検討した結果、新川水系の⑤上別曾の溜池bであった可能性が高いと推定された。

(1) 武豊町役場への聞き取り調査

町役場ではカワバタモロコに関する情報を保有していなかった。また、2000年以前の溜池埋立に関する記録も確認できなかった。ただし、新薄里(旧・道兼)に所在した溜池を埋立て、西側2号公園(避難所)を整備したとの情報が得られた。町が把握している埋立溜池はこの1ヶ所のみであり、民有地については把握していないとの回答であった。

(2) 文献調査

武豊町におけるカワバタモロコの生息情報を直接示す資料は確認できなかった。しかし、『武豊町誌 資料編二』(原, 1983)の「動物」章には、カワバタモロコの鱗の写真が掲載されていた。

(3) 地図の比較

国土地理院地形図では溜池の分布に大きな変化は見られなかった。一方、住宅地図の比較では、①新砂、②新薄里(旧・道兼)、③深谷、④上別曾 a、⑤上別曾 b の5つの溜池が消失していた。これらはいずれも新川水系に属していた。

(4) 現地視察

現地視察の結果、①新砂の溜池は湿地化しており、埋め立ては確認されなかった(図2)。②新薄里(旧・道兼)の溜池は公園として整備され、埋め立てが確認された(図3)。③深谷および④上別曾 a の溜池は現存していた(図4, 5)。⑤上別曾 b の溜池は埋め立てられ、太陽光発電所として利用されていた(図6, 7)。

(5) 愛知道路コンセッション株式会社への聞き取り調査

環境アセスメント資料は保存期間の経過により現存していなかった。

考察

本研究では、文献調査、聞き取り調査、地図比較および現地視察の結果を総合的に検討した。その結果、武豊町におけるカワバタモロコの生息地は、新川水系の⑤上別曾の溜池 b であった可能性が高いと推定された。

ただし、地図に掲載されない溜池が存在すること、すべての溜池を調査したわけではないこと、さらにカワバタモロコを野外で直接採集していないことなどの理由から、生息地を断定するには至らなかった。

また、環境アセスメントなどの関連報告書が存在していれば、すでに武豊町から本種が絶滅していた場合でも、生息地を特定できた可能性がある。今回の聞き取り調査は2か所に限られたが、今後より多くの企業や関係機関に対して聞き取りを実施することで、環境アセスメントの報告書などが発見される可能性がある。

現在、この溜池は埋め立てられ、太陽光発電所として利用されており、武豊町内における野生個体群はすでに消失していると考えられる。『武豊町誌』(原, 1984)に掲載されているカワバタモロコの鱗写真は、かつて町内に本種が生息していたことを示す可能性があるが、それ以降の記録は確認できない。

このことから、赤塚山公園ぎょぎょランドで飼育されている個体群は、野生個体群の最後の子孫である可能性が高い。保存されている生物にとって、採集地情報は極めて重要である。詳細な産地情報が得られるほど、その生物の学術的価値および保全的価値は高まる。

例えば、「愛知県産」よりも「武豊町産」、「上別曾産」と明確に記録されることが、地域固有性の理解や保全・再導入の基礎となる。魚類の場合は特に水系の違いが重要であり、溜池が埋め立てられていても、同一水系内での保全的導入による野生復帰が可能である(日本魚類学会, 2005)。

希少種の分布情報の消失は、生物保全学上の大きな損失につながるおそれがある。したがって、分布地の記録は地図上での位置情報として保存し、説明文のみで伝達しないことが重要である。

本研究により、町内で2か所の溜池が埋め立てられたことが確認され、これらはいずれも新川水系に属していた。したがって、この水系を対象として保全的導入を検討することは可能であると考えられる。

ただし、カワバタモロコは希少性ゆえに各地で移殖・放流が行われており、異なる産地の個体が混在している例も報告されている(永井, 2014)。また、知多半島中央部に位置する半田市のカワバタモロコは移殖個体である可能性が高いと示唆された(峯, 私信)。

このため、赤塚山公園ぎょぎョランドで飼育されている個体群が真に武豊町由来であるかどうか、今後は遺伝的解析によって確認する必要がある。また、現在この個体群は赤塚山公園ぎょぎョランドの1施設のみで飼育されているため、停電や疾病などによる全滅を防ぐ目的で、複数施設による分散飼育を行うことが望ましい。さらに、武豊町産カワバタモロコの保全的導入を行う際には、地域住民・行政・研究者の三者が連携し、「カワバタモロコ保全の手引き」（自然環境センター，2023）に沿って活動を進めることが必要である（森，2016）。

武豊町産カワバタモロコが真に当地由来であることが明らかになれば、将来的に武豊町での野生復帰が実現することを期待したい。

謝辞

情報提供をいただいた碧南海浜水族館の地村佳純館長、琵琶湖博物館の金尾滋史学芸員、魚と子どものネットワークの峯和也氏、武豊町役場、および愛知道路コンセッション株式会社に深く感謝申し上げます。

引用文献

- 浅香智也，2020. カワバタモロコ. 愛知県環境調査センター（編）. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020 動物編. 愛知県環境局環境政策部自然環境課，愛知，p.225.
- 日本魚類学会，2005. 生物多様性の保全をめざした魚類の放流ガイドライン（2005年）. https://www.fish-isj.jp/message/guideline/2005_0326/（閲覧2025年9月8日）.
- 原穰，1983. 動物. 武豊町誌資料編二. 豊武町，愛知，pp.3-39.
- 環境省，2020. 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令の一部を改正する政令」の閣議決定について（国内希少野生動植物種の指定等）. <https://www.env.go.jp/press/107622.html>（閲覧2025年9月5日）.
- 国土地理院，1984. 河和2万5千分の1地形図. 国土地理院，茨城，p.1.
- 国土地理院，1998. 河和2万5千分の1地形図. 国土地理院，茨城，p.1.
- 前畑政義，2015. カワバタモロコ. 環境省（編）. レッドデータブック2014 汽水・淡水魚類. ぎょうせい，東京，pp.168-169.
- マップシステムアイゼン，2018. アイゼンの住宅地図 はい・まっぶ南知多郡'19. マップシステムアイゼン，愛知，66+2+70+88pp.
- マップシステムアイゼン，1994. アイゼンの住宅地図 はい・まっぶ南知多郡'95. マップシステムアイゼン，愛知，56+97+96pp.
- 森誠一，2016. 積極的保全：何を指し、どのように守っていくのか？ 日本魚類学会自然保護委員会（編）. 淡水魚保全の挑戦 水辺のにぎわいを取り戻す理念と実践. 東海大学出版部，神奈川，pp.299-314.
- 永井貞，2014. カワバタモロコ. 岡崎（編）. 岡崎市の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックおかげぎ2014. 岡崎市，愛知，p.218.
- 自然環境センター，2023. 特定第二種国内希少野生動植物種カワバタモロコの保全の手引き. 環境省 自然環境局野生生物課希少種保全推進室，東京，33pp.



図 2. ①新砂の溜池.



図 3. ②新薄里の溜池（現在は公園）.



図 4. ③深谷の溜池.



図 5. ④上別曾の溜池 a.



図 6. ⑤上別曾の溜池 b（現在は太陽光発電所）.



図 7. 過去の上別曾の溜池 b（マップシステム、1994 改変）.

豊川市赤塚山公園アニアニまあるにおけるウシガエルの出現状況

浅香智也
(赤塚山公園)

はじめに

ウシガエル *Lithobates catesbeianus* は、アカガエル科に分類される体長 110～180 mm 程度の大型カエルである。本種は北米原産であるが、1918年に日本へ導入され養殖されていた。その後、養殖場から逸出した個体が全国各地に定着した。ウシガエルは池沼・湖・河川などの緩やかな流れを好んで生息し、冬期には水底などで越冬または冬眠する。成体は甲殻類・昆虫・魚類・両生類・鳥類・小型哺乳類などを捕食する。繁殖期は5～9月と長く、産卵数は4,000～60,000個に及ぶ。幼生(オタマジャクシ)は越冬し、5～10月に変態する(松井・前田, 2018)。

ウシガエルは高い捕食性と旺盛な繁殖力を有し、捕食および餌資源をめぐる在来種への影響が懸念されている。そのため、国際自然保護連合(IUCN)によって「世界の侵略的外来種ワースト100」に、日本生態学会によって「日本の侵略的外来種ワースト100」に選定されている(村上・鷲谷, 2002)。さらに、2006年からは特定外来生物に指定された。

赤塚山公園の小動物広場「アニアニまある」では、夜間から朝方にかけて雨が降るとウシガエルの目撃頻度が高くなることに気づいた。そこで、本種が夜間から朝方にかけて雨天時に移動してくるのか、また体長組成がどのようなものであるかを調べたので報告する。

調査方法

2022年7月1日～2023年6月30日に、アニアニまある内(図1)でウシガエルをタモ網により採集し、体長をノギス(ダイヤルノギス, シンワ社)で測定した。また、夜間から朝(17:15～8:30, 以下「前日の夜」とする)にかけて降雨の有無を記録し、ウシガエルの出現との関係を検討した。なお、採集した個体は特定外来生物に指定されているため、すべて処分した。

調査結果

2022年7月1日から2023年6月30日までの間に、アニアニまある内で計33個体のウシガエルを採集した。出現は24日間にわたり、1日に2～3個体を確認した日も各3回あった。

最も多く確認されたのは放牧場にある池(図2)で26個体、次いでコイ *Cyprinus carpio* などを飼育している池(図3)で5個体であった。その他、畜舎前のコンクリート通路および、水のないコンクリート製U字溝(工事中のため蓋がなかった)でそれぞれ1個体を確認した。

出現時期は7～10月および4～6月であった(図4)。最も多かったのは7月で全体の34%(11個体)、次いで9月が30%(10個体)、8月が15%(5個体)であった。11～3月は採集されなかったが、4月が3%(1個体)、10月・5月・6月が各6%(2個体)であった(図5)。

前日の夜の天気との関係を見ると、雨天時に採集されたものが70%(23個体)、晴れまたは曇天時が30%(10個体)であり、雨天の翌朝の出現率が高かった(図6)。

採集個体の体長は41～111 mmで、平均60.1 mmであった(図7)。月別の体長変化をみると、2022年7月～



図1. アニアニまあるの略図。

2023年6月にかけて成長傾向が認められた(図8)。7月は45～66 mm(平均52.9 mm)で、尾が残る個体を2例含んでいた。8月は42～56 mm(平均47.7 mm), 9月は41～84 mm(平均53.9 mm)と体長幅が広がった。10月には100 mmを超える大型個体(105 mm, 平均85 mm)が確認された。2023年4月は72 mm, 5月は64 mm および93 mm(平均78.5 mm), 6月には最大111 mm および106 mmの個体を採集した。



図2. 放牧場の池.



図3. コイなどを飼育している池.

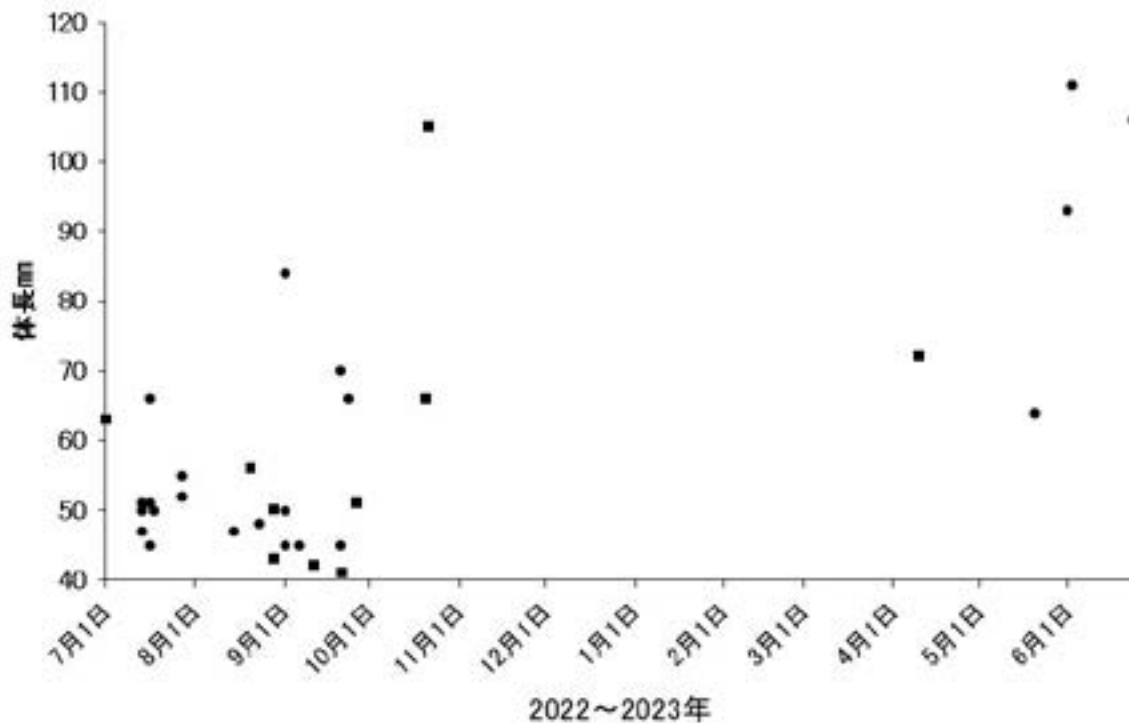


図4. アニアニまあるにおけるウシガエルの出現 (●: 前日の夜が雨, ■: 前日の夜が晴れまたは曇).

考察

アニアニまあるで採集されたウシガエルは、体長75 mm以下の小型個体が多く、平均60.1 mmであった。また、卵や幼生(オタマジャクシ)が確認されなかったことから、当該場所が繁殖地ではない可能性が高い。しかし、33個体が確認されたことから、当該場所が分散のための中継地として利用されている可能性が考えられる。

特定外来生物であるウシガエルは、発見時に速やかに処分することで、わずかではあるが拡散の抑制につながると考えられる。特に小型個体が多く確認された7～9月に重点的に見回りを行うことで、効果的な対策が期待できる。

アニアニまあるは池の排水口が垂直で深く、網の蓋が設置されているため、水路を通じた侵入は困難と考えられる。一方で、日中にコンクリート通路を跳ねて移動する個体も確認されており、水場を経由せずに陸上を移動する可能性もある。ただし、当施設北側には溜池(中池)があり、放牧場の池との距離は10 m以内と近接しているため、これらの水域間を行き来していると推察される。

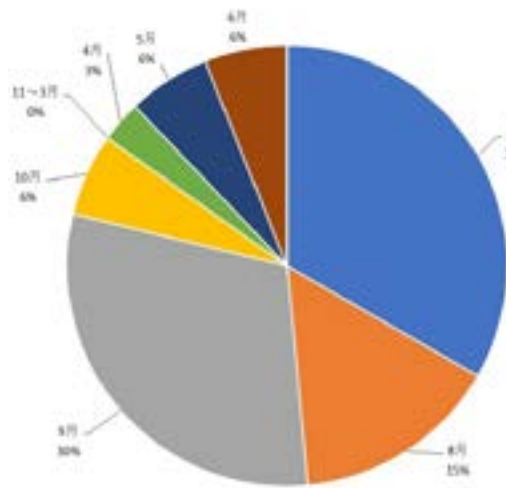


図5. 月別によるウシガエルの出現率.

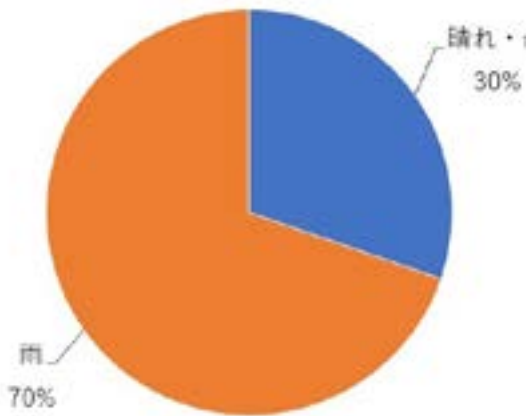


図6. 前日の夜の天気によるウシガエルの出現率。(時間の長さにかかわらず、前日の夜(17:15~8:30)の間に雨が降ったものを雨とした)。

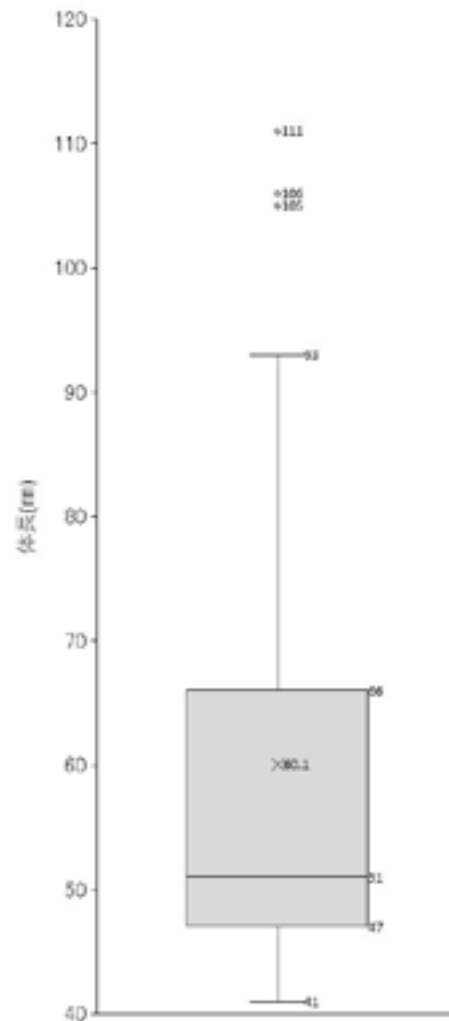


図7. アニアニまあるで採集されたウシガエルの体長(箱ひげ図の箱の下底は25%, 上底は75%の値, 箱の中の横線は中央値, ×は平均値を示す。また, ヒゲの縦線は最小値と最大値, 点は外れ値を示す)。

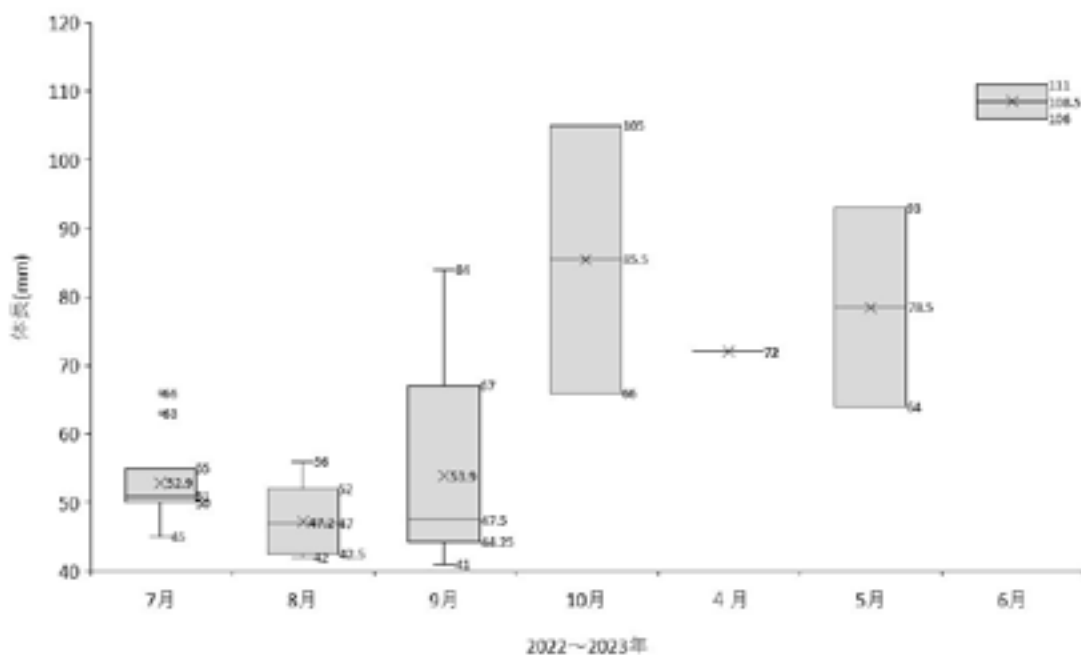


図8. アニアニまあるで採集されたウシガエルの月別の体長(箱ひげ図の箱の下底は25%, 上底は75%の値, 箱の中の横線は中央値, ×は平均値を示す。また, ヒゲの縦線は最小値と最大値, 点は外れ値を示す)。

ウシガエルは前日の夜が雨天である場合に活動が活発化する傾向がみられた。したがって、夜間に少量でも降雨があった場合は、翌朝に本種が移動してくる可能性が高く、注意が必要である。しかし、晴天時にも移動が確認されていることから、拡散防止には繁殖地の特定と、幼生（オタマジャクシ）段階での駆除が重要である。加えて、日常的な見回りと採集の継続が求められる。また、本種は流れが緩やかで植生の多い池を好む傾向がある（松井・前田，2018）。したがって、必要がなければ隠れ家となる構造物を設けず、見通しの良い環境を保つことで、発見と対処が容易になると考えられる。

赤塚山公園は自然が豊かで、風景・植物の撮影や昆虫採集を目的に来園する人も多い。外来種の侵入地域では在来種への多様な影響が報告されており（村上・鷺谷，2002），地域の生態系を守るためには外来種の駆除はやむを得ない。さらに、ペットの放逐も確認されていることから、園内の定期的な巡回とともに、新たな外来種侵入の防止策を講じる必要がある。自然豊かな公園環境を維持するためには、外来種対策に関する明確なルールづくりと、積極的な駆除活動の継続が重要である。

引用文献

- 松井正文・前田憲男，2018．日本産カエル図鑑．文一総合出版，東京，271pp.
村上興正・鷺谷いづみ，2002．外来種ハンドブック．地人書館，東京，39pp.

豊川市赤塚山公園におけるハラビロカマキリの褐色型の確認記録

浅香智也
(赤塚山公園)

はじめに

ハラビロカマキリ *Hierodula patellifera* は、カマキリ目カマキリ科に属し、日本では本州・四国・九州に分布する。体長は 50～70 mm で、前脚基部に 3～4 個の突起をもち、前翅に白点を有することが形態的特徴である。また、他種と比較して前胸が短く、腹部が幅広い。主な生息環境は樹上で、昆虫類を捕食する肉食性昆虫である(日浦, 1977)。

本種の体色は一般に緑色型(図1)が多いが、褐色型(図2)の個体も知られている。褐色型の出現頻度については「少ない」(中峰, 2017)あるいは「稀」(海野, 2019)と記されており、報告により表現の違いはあるものの、いずれも一般的な観察では確認が困難である傾向が示唆されている。

筆者は 2008～2025 年に、愛知県豊川市赤塚山公園においてハラビロカマキリの褐色型個体を確認したため、ここに報告する。



図1. ハラビロカマキリの緑色型♀ (2- IX -2023, 豊川市市田町).

記録

赤塚山公園: 1 ♀, 22- X -2008 (図2). 1 ♀, 27- XII -2023 (図3). 1 ♀, 1- XI -2025 (図4).

1 ♀, 6- XI -2025. 1 ♀, 14- XI -2025 (図5) .



図2. ハラビロカマキリの褐色型♀ (ハラビロカマキリの緑色型を捕食中; 22- X -2008, 豊川市市田町).



図3. ハラビロカマキリの褐色型♀ (27- XII -2023, 豊川市市田町).

本報告に記載する褐色型ハラビロカマキリは、2008年の1個体(図2)、2023年の1個体(図3)、および2025年の3個体(図4, 5)の計5例である。いずれも豊川市赤塚山公園内の小動物広場「アニアニまある」において観察された。

2008年および2023年の個体は木の幹上で発見され、2025年の個体は栽培している牧草の上および柵の上で確認された。特に2023年の観察記録は、12月27日というカマキリ成虫の一般的な出現時期(9～11月)を大きく過ぎており、褐色型であった点と併せて極めて興味深い事例である。



図4. ハラビロカマキリの褐色型♀ (1- XI -2025, 豊川市市田町).



図5. ハラビロカマキリの褐色型♀ (14- XI -2025, 豊川市市田町).

おわりに

赤塚山公園内の赤塚山・片瀬山・御山は、開園以前から地域住民に親しまれてきた里山であり、かつてはカブトムシやクワガタムシなどの昆虫採集が盛んに行われていたことが、地元関係者への聞き取りにより確認された。現在も親子による昆虫採集が多く見られ、このような自然豊かな公園環境を持続的に維持することは、生物多様性の保全に寄与すると考えられる。

同一種内で異なる体色型(カラーバリエーション)が観察される背景には、このような里山的環境の多様性が関与している可能性があり、地域環境保全の重要性が示唆される。今後も昆虫類をはじめとする生物が安定して生息できる環境整備に努め、公園内でより多様な昆虫が観察されることを目指す必要がある。また、昆虫採集に際しては、必要以上の持ち帰りを控えるべきであり、持続的な自然利用の観点から啓発活動の充実が求められる。

近年、ハラビロカマキリの個体数減少には、外来種ムネアカハラビロカマキリ *H. chinensis* の侵入が関与していることが報告されている(戸田, 2018; 伊與田, 2022)。豊川市赤塚山公園でもムネアカハラビロカマキリの侵入が確認されており(浅香, 2026)、在来種の動向把握と外来種対策の必要性が指摘できる。今後もハラビロカマキリの生息状況の変化を注視していく必要がある。

引用文献

- 浅香智也. 2026. 豊川市におけるムネアカハラビロカマキリの記録. 赤塚山公園園報告 7: 48-49.
- 日浦修. 1977. カマキリ亜目. 伊藤修四郎・奥谷禎一・日浦修(編). 原色日本昆虫図鑑(下). 保育社, 大阪, pp.46-48.
- 伊與田翔太・根本宗一郎・高坂晴香・幸村帆夏・佐橋拓弥・岸村晋作・犬飼瑠那・杉浦宏亮・長坂優斗・白石友也・立脇隆文, 2022. 愛知県岡崎市におけるムネアカハラビロカマキリとハラビロカマキリの分布状況. 豊橋市自然史博物館研報 32: 1-7.
- 中峰空. 2017. 本州・四国・九州のカマキリ図鑑. こどもとむしの会, 兵庫, 28 pp.
- 海野和夫. 2019. 増補改訂新版 身近な昆虫識別図鑑. 誠文堂新光社, 東京, 319 pp.
- 戸田尚希, 2021. ムネアカハラビロカマキリ *Hierodula venosa*, 愛知県の外来種ブルーデータブックあいち 2021. 愛知県環境局環境政策部事前環境課, 愛知, p.72.

豊川市におけるムネアカハラビロカマキリ初記録

浅香智也・杉浦篤史
(赤塚山公園)

はじめに

ムネアカハラビロカマキリ *Hierodula chinensis* は、中国を原産とするカマキリ目カマキリ科の昆虫である。本種は日本において、2000年に福井県敦賀市で初めて生息が確認された(藤野ほか, 2010)。その侵入経路については、中国から輸入された竹箒に卵鞘が付着し、それが各地へ伝播したと推定されている(櫻井ほか, 2018)。

愛知県内では、2012年以降、豊田市での確認(吉鶴, 2014)を皮切りに、尾張・西三河地方を中心として分布域を拡大していることが報告されている(戸田, 2021)。しかし、これまで豊川市内からの発見例はなかった。筆者らは2021年11月2日より、豊川市赤塚山公園(豊川市市田町)において本種の生息を確認したため、ここに報告する。

記録

赤塚山公園

ぎよぎよランド: 1♀, 2-XI-2021. 1♀, 30-XI-2021. 1♂, 24-VIII-2022. 1♀, 30-XI-2022.
1♀, 3-X-2025. 1♀, 3-XI-2025.

アニアニまある: 1♂, 17-VIII-2023 (図1, 2). 1♀, 28-IX-2023 (図3, 4). 1♀, 13-X-2023.
2♀, 11-XII-2023. 1♀, 21-X-2024. 1♀, 5-XI-2024. 1♀, 18-XI-2024.
1♀, 7-VIII-2025. 1♀, 20-VIII-2025. 1♀, 20-X-2025. 1♀, 6-XI-2025.
1♀, 7-XI-2025. 1♀, 30-XI-2025. 1♀, 4-XII-2025.

梅園: 1♀, 18-X-2024.

本種は2021年11月に初めて確認された。また、2025年まで同一公園内の複数地点で雄2個体、雌20個体、計22個体を確認しており、継続的に観察されている。さらに、2025年12月31日に、アニアニまある内で卵鞘が確認された。また、幼虫は確認されていないが、毎年夏から晩秋にかけて成虫が複数回確認されていることから、安定的に定着している可能性が示唆される。

おわりに

豊川市内では、オオカマキリ *Tenodera aridifolia*, チョウセンカマキリ *T. angustipennis*, コカマキリ *Statilia maculata*, ハラビロカマキリ *H. patellifera*, ヒメカマキリ *Acromantis japonica* の生息が確認されており(高柳, 1998, 2005), 近年ではサツマヒメカマキリ *A. satsumensis* の記録も報告されている(浅香, 2023)。これらに外来種であるムネアカハラビロカマキリを加えると、豊川市におけるカマキリ類の生息種は7種となる。

本報告は豊川市における本種の初記録であり、東三河地方では隣接する新城市においても2023年8月に生息が確認されている(鳳来寺自然科学博物館, 2023)。これらのことから、本種が地域全体で分布を拡大しつつある可能性が示唆される。

本種の侵入地域では、在来種ハラビロカマキリの個体数減少が報告されており(戸田, 2018; 伊與田, 2022), 今後もその動向を継続的に注視する必要がある。

引用文献

浅香智也, 2023. 豊川市におけるサツマヒメカマキリの確認. 鳳来寺山自然科学博物館館報 52: 51.

藤野勇馬・岩崎 拓・市川顕彦, 2010. 福井県敦賀市でハラビロカマキリ属不明種の成虫と卵囊を採集. 昆虫

と自然 43(5) : 32-34.

鳳来寺山自然科学博物館, 2023. 60周年の秋. 博物館ザッ記 42.

伊與田翔太・根本宗一郎・高坂晴香・幸村帆夏・佐橋拓弥・岸村晋作・犬飼瑠那・杉浦宏亮・長坂優斗・白石友也・立脇隆文, 2022. 愛知県岡崎市におけるムネアカハラビロカマキリとハラビロカマキリの分布状況. 豊橋市自然史博物館研報 32 : 1-7.

櫻井博・苅部治紀・加賀 玲子, 2018. ムネアカハラビロカマキリの非意図的導入事例 中国から輸入された竹箒に付着した卵鞘, 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学) 47 : 67-71.

高柳久和, 1998. バッタ類, 新編豊川市史 第十卷自然. 豊川市, 愛知, pp.411-415.

高柳久和, 2005. バッタ類, 音羽町史自然本文. 音羽町, 愛知, pp.394-400.

戸田尚希, 2018. ムネアカハラビロカマキリ *Hierodula venosa*, 愛知県の外来種ブルーデータブックあいち 2021 愛知県環境局環境政策部事前環境課, 愛知, p.72.

吉鶴靖則, 2014. 愛知県矢作川中流域における外来性ハラビロカマキリ属の一種の分布状況. 豊橋市自然史博物館研究報告 24 : 1-5.



図1. ムネアカハラビロカマキリ♂ (17-VIII-2023, 豊川市市田町).



図2. ムネアカハラビロカマキリ♂の胸部裏 (図1と同個体).



図3. ムネアカハラビロカマキリ♀ (28-IX-2023, 豊川市市田町).



図4. ムネアカハラビロカマキリ♀の胸部裏 (図3と同個体).

豊川市市田町におけるチャイロスズメバチの確認事例

浅香智也
(赤塚山公園)

はじめに

チャイロスズメバチ *Vespa dybowskii* は、キイロスズメバチ *V. simillima* やモンキスズメバチ *V. crabro* の巣に侵入し、女王蜂を殺害して巣を乗っ取る。さらに、宿主の働き蜂を労働力として利用し、自らの働き蜂を生産することで、最終的に巣を完全にチャイロスズメバチのコロニーへと置換する社会寄生性を示すスズメバチ科の種である。その体長は17～30 mmに達する(藤丸, 2014)。

本種は、かつて局所的な分布と個体数の少なさから「幻のスズメバチ」と称されることもあったが、愛知県では1992年に名古屋市で初めて確認された内藤, 2007; 山内, 2009)。筆者は2019年7月1日に豊川市でチャイロスズメバチを初めて確認し、その記録を報告した(浅香, 2021)。本稿では、新たに豊川市市田町の豊川市赤塚山公園「アニアニまある」休憩ホールにおいて確認された事例について報告する。



図1. チャイロスズメバチ (5-VII-2022, 豊川市市田町)。 図2. アニアニまあるの休憩ホール (現在は取り壊し済み)。

記録

豊川市市田町: lex, 5-VII-2022 (図1)。

確認されたチャイロスズメバチは体長約30 mmであり、2022年7月5日にアニアニまある休憩ホール(図2)内に侵入した個体を、殺虫剤を用いて致死させた後に同定した。

おわりに

筆者は、豊川市内でチャイロスズメバチの2個体目を確認した。既報(浅香, 2021)では、平尾町での初確認事例は死亡個体であったが、今回は生存個体の確認に至った。また、2025年8月7日には、アニアニまあるの倉庫前コンクリート上で死亡していた本種1個体を確認している。

市田町と平尾町は隣接しており、当該地域における営巣の可能性が示唆される。今後は本種の巣の確認も視野に入れるが、スズメバチの調査には危険が伴うため、安全を最優先に継続的な観察を実施する予定である。

引用文献

浅香智也, 2021. 豊川市平尾町で確認されたチャイロスズメバチ. 鳳来寺自然科学博物館館報 50: 60.

藤丸篤夫, 2014. ハチハンドブック. 文一総合出版, 東京, 104pp.

内藤通孝, 2007. 名古屋東山周辺の昆虫相. 椋山女学園大学研究論集 38: 137-149.

山内博美, 2009. 都市のスズメバチ. 中日出版社, 愛知, 113pp.

民間事業者と連携した自然観察会の有料化について

前田民男
(赤塚山公園)

はじめに

豊川市赤塚山公園では、2018年から「赤塚山公園自然観察会」(以下、自然観察会とする)を始めた。園内で生息している様々な生き物の専門家を講師として招聘し、自然観察会を行っている。2023年に当園は、開園30周年を迎えリニューアルオープンした。それに伴い、淡水魚水族館「ぎょぎょランド」前に飲食や物販、休憩施設がある「あかつかテラス」を整備した。その施設では、「Park-PFI(公募設置管理制度)」を導入して、民間事業者(株式会社イトコー)が管理することになった。民間のノウハウを活用して公園の魅力を高め、にぎわいの創出を図るために、2024年から民間事業者と連携して自然観察会を有料化した。また、申し込み業務は、豊川市観光協会と連携して行った。その事例を報告する。

活動内容

赤塚山公園では、「カタツムリの観察」、「ナイトツアー」、「キノコの観察」、「バードウォッチング」の4分野の自然観察会を開催している。「ナイトツアー」は、2023年から豊川市都市整備部公園緑地課の主催となったため、それ以外の「カタツムリの観察」、「キノコの観察」、「バードウォッチング」を有料化し、2024年1月開催の「バードウォッチング」から開始した。

自然観察会の開催時間は、午前9時から正午までの3時間開催した。最初の15分～30分は生き物の観察の方法などを説明した。その後1～2時間観察をして、最後に観察した生き物についてのまとめを行った。定員は20人で、対象者は小学生以上とし、観察後に「あかつかテラス」の公募対象公園施設(GOOD-TIMEPLACE)で調理した有機栽培や無農薬栽培の食材を使用したお弁当を提供した(図1,2)。参加費は、無料から1人1,000円(お弁当代・保険料を含む)とした。また、参加者申し込み業務については、豊川市観光協会と連携して、「体験プログラム マイストーリーとよかわ(https://www.toyokawa-map.net/my_story_toyokawa/)」を利用した。申し込み方法は、先着順で参加費は、クレジットカード決済とした。



図1. 公募対象公園施設(GOOD-TIMEPLACE)



図2. 提供したお弁当

おわりに

自然観察会は、これまで無料で開催していたため、有料化により参加者が減少するのではないかと懸念していたが、毎回満席に近い申し込みがあった。家族や親子での参加が多く、最後の1組が調整できずに申し込み人数が19名になった回もあったが、これだけの参加があったのは、有料化に対してそれ以上の価値がある魅力的な自然観察会であることを実感した。これは、自然観察会の外部講師の方々のおかげでもある。新型コロナウイルス感染症の影響もまだあり、体調不良によるキャンセルがあったが、出席率も高くなった(表1)。また、参加者の学習意欲の向上も感じ取られ、特にそれぞれの分野に興味を持って参加する小学生が多かったこと

は、とても良い結果となった(図3)。

ただし、有料化したことによる金銭面の負担や申し込み方法によって参加しづらくなった可能性もあると考えられるため、今後多くの方に参加してもらえるように料金設定や申し込み方法を検討する必要がある。

表1. 赤塚山公園自然観察会実績表

開催日	タイトル	応募数 (人)	参加数 (人)
2024年1月21日	バードウォッチング	17	17
2024年1月28日	バードウォッチング	21	21
2024年6月23日	カタツムリの観察	19	17
2024年9月29日	キノコの観察	20	18
2025年1月19日	バードウォッチング	20	18
2025年1月26日	バードウォッチング	19	19



図3. カタツムリを観察する小学生

謝辞

鳳来寺山自然科学博物館館長の加藤貞亨氏、豊橋市自然史博物館主任学芸員の西浩孝氏、東三河野鳥同好会会員の渡曾理絵氏には外部講師としてご協力していただいた。また、株式会社イトコー、豊川市観光協会には、共同事業者として協力していただいた。今後とものご指導、ご協力を切望し、厚くお礼申し上げます。

引用文献

- 前田民男 2020. 特集 第14回赤塚山公園自然観察会「キノコの観察」. あかつかやま 89:2-3.
- 前田民男 2022. 事例報告 外部講師との連携による自然観察会. 豊川市赤塚山公園園報 6:34-36
- 杉浦篤史 2020. 特集 赤塚山公園の自然観察会. あかつかやま 85:2

編集後記

令和3年は、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が発出され、様々なイベントを自粛することとなりました。そこから、赤塚山公園の再整備に取り掛かり、令和5年の赤塚山公園開園30周年にリニューアルオープンを遂げました。リニューアルにより、「わくわくパーク」には大型遊具、「アニアニまある」にはポニーの引き馬コース、「ぎよぎよランド」前には、「あかつかテラス」が新設されました。大型遊具で子どもたちが歓声を上げて遊んだり、「あかつかテラス」でおいしいコーヒーを楽しんでいただけるようになりました。一時落ち込んでいた入場者数も、年間40万人を超えるまでに回復し、赤塚山公園で笑顔でお過ごされている姿を見て、とてもうれしく思っています。

本園報は、すべて職員の手作りによるものです。不備、不十分なところが多いと思いますが、ご寛容いただければ幸いです。

今後とも、皆様に愛され続ける公園を目指していきますので、赤塚山公園をよろしく願いいたします。

前田 民男

豊川市赤塚山公園園報 第7号

発行日 令和8年3月31日

発行者代表 岩村 彰久

製本・印刷 豊川市赤塚山公園
〒442-0862
豊川市市田町東堤上1番地30
TEL:0533-89-8891
FAX:0533-89-8892